蔵　人　城　跡

－大規模太陽光発電所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１８

群馬県安中市教育委員会

株式会社　クリーンエネルギー研究所

株式会社　測研

蔵　人　城　跡

－大規模太陽光発電所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－

２０１８

群馬県安中市教育委員会

株式会社　クリーンエネルギー研究所

株式会社　測研

序

安中市は群馬県の西南部に位置し、妙義山の東麓に広がる緑豊かな田園都市です。市内を流れる碓氷川とその支流によって形成された河岸段丘上には、悠久の昔から私たちの祖先が残した遺跡が数多く存在しています。また古来より交通の要として栄え、古代律令制下の官道である東山道、近世の中山道、そして近代にはアプト式鉄道に代表される鉄道施設等、多くの歴史遺産を有しています。これらの遺産は国民共有の財産であり、後世へ正しく伝えることが私たちの責任であると考えています。

今回報告する「蔵人城跡」は、安中市中秋間地区にあり、秋間丘陵の分岐丘陵である後閑丘陵の東端部、秋間川を望む小尾根につくられた中世の並郭式山城です。発掘調査は大規模太陽光発電所建設に伴い行われました。調査によって、今回の開発の前に行われていたゴルフ場造成に伴い、山城の遺構の多くが削平されていたことが確認されました。当時のはっきりとした遺構の検出はできませんでしたが、削平された事実が確認できたこと、また当時の遺物が採取できた事などの成果がありました。

このように調査を一つ一つ積み重ね、歴史を正しく記録して後世に伝えていくことが重要な責務といえます。本報告書が蔵人城跡だけでは無く、秋間地区を始め安中市域の歴史を解明する一助となり、幅広く活用されることを願います。

最後に、調査に参加していただいた皆様、報告書刊行にご協力・ご指導をいただいた多くの方々に厚く御礼を申し上げ、序といたします。

平成 30 年 3 月

安中市教育委員会
教育長　桑　原　幸　正

例　言

・本書は、大規模太陽光発電所建設に伴い、事前調査された蔵人城跡の発掘調査報告書である。
・本遺跡は、群馬県安中市中秋間薬師谷津 865 番 1 他、鍛冶谷津乙 1054 番他に所在する。遺跡名は蔵人城跡（くらんどじょう、遺跡略号 B-12)、調査面積は約 4,500㎡である。
・発掘調査及び整理等作業は、安中市教育委員会の指導・監督の下に、事業者と委託契約を締結した株式会社測研が実施した。
・発掘調査から整理等作業を経て本書刊行に至る経費は、事業者である株式会社クリーンエネルギー研究所様に負担していただいた。
・発掘調査の体制は下記のとおりである。
　安中市教育委員会　文化財保護課　主幹　　千田　茂雄
　株式会社　測　研　　髙林　真人
・発掘調査期間は平成 29 年 4 月 4 日～平成 29 年 5 月 19 日、整理等作業期間は平成 29 年 5 月 22 日～平成 30 年 4 月 20 日である。
・本書の執筆は、第 1 章を安中市教育委員会文化財保護課、第 2 ～第 4 章を髙林が行い、編集は髙林が行った。
・出土した遺物及び各種原図・写真などの記録類は安中市教育委員会が保管している。
・本遺跡の発掘調査及び報告書刊行にあたって、下記の方々・機関からご指導・ご協力を賜った。ここに記して御礼申し上げます。(順不同・敬称略)
　株式会社クリーンエネルギー研究所　　株式会社ローズベイ　　カワナベ工業株式会社

凡　例

・遺構番号は、原則として発掘調査時に付したものを使用している。
・遺構挿図中に使用した座標値は世界測地系によるものであり、方位記号は座標北を示している。
・遺構断面図に付した数値は海抜を表す。
・土層注記及び遺物の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局　財団法人日本色彩研究所監修『新版標準土色帖（1998 年版)』を使用した。
・遺構には次の略号を使用した。
　D＝土坑　　P＝ピット（小穴）
・遺構の実測図は、調査区全体図を 1 /800、遺構配置図・埋没谷平面図を 1 /300、埋没谷断面図を 1 /60、基本土層断面図を 1 /50、土坑平面図・断面図を 1 /40 で掲載した。
・遺物の実測図は土器類を 1 / 4 、石器・石製品・鍛冶関連遺物を 1 / 3 で掲載した。
・遺物写真は、実測図とほぼ同寸となるように掲載した。
・出土した遺物の注記は、蔵人城　調査区名・遺構名　出土層位などを記入した。
・本報告書では、下記の火山噴出物の略号を使用した。
　◎浅間 A 軽石＝Ａｓ－Ａ　　◎浅間 B 軽石＝Ａｓ－Ｂ
・本報告書で使用した地図の原図は下記のとおりで、縮小して使用している。
　◎国土地理院　地形図　「松井田」・「富岡」・「三ノ倉」・「下室田」　1 /25,000
　◎安中都市計画図　　1 /2,500
・遺物実測図に使用したトーンは以下のとおりである。
　還元焔須恵器断面：　　煤：　　ガラス質：

目　次

例言
凡例
目次・挿図目次・表目次・写真図版目次
第１章　調査に至る経緯 …… 1
第２章　遺跡の位置と環境 …… 1
　第１節　遺跡の位置と周辺の地形 …… 1　　第２節　周辺の遺跡 …… 1
第３章　調査方法と調査の経過 …… 3
　第１節　調査方法 …… 3　　第２節　調査の経過 …… 4
第４章　確認された遺構と遺物 …… 4
　第１節　蔵人城跡の概要 …… 4　　第２節　遺構の分布と基本土層 …… 4
　第３節　土坑・ピット …… 7　　第４節　埋没谷 …… 14
　第５節　出土遺物 …… 15　　第６節　まとめ …… 17

挿図目次

第１図　周辺遺跡図（１/50,000）・調査区位置図（１/5,000） …… 2
第２図　現況地形図（１/4,000）・山崎一氏の略測図（１/4,000） …… 5
第３図　調査区全体図・基本土層図 …… 6
第４図　Ｉ区調査区遺構配置図、１号・２号土坑平面図・断面図 …… 8
第５図　３号～８号土坑平面図・断面図 …… 9
第６図　北東部埋没谷平面図・断面図 …… 10
第７図　南西部埋没谷平面図・断面図① …… 12
第８図　南西部埋没谷断面図② …… 13
第９図　出土遺物実測図 …… 16

表目次

第１表　ピット観察表 …… 14
第２表　遺物観察表 …… 18

写真図版目次

ＰＬ．１　蔵人城跡遠景（南東上空から）
　　調査区全景（真上から、上が西）
ＰＬ．２　調査前遠景（南から）
　　Ｄ－１号土坑全景（南西から）
　　Ｄ－２号土坑全景（南西から）
　　Ｄ－３号土坑全景（北から）
　　Ｄ－４号土坑全景（南西から）
　　Ｄ－５号土坑全景（南東から）
　　Ｄ－６号土坑全景（南東から）
　　Ｄ－７号土坑全景（南から）
ＰＬ．３　Ｄ－８号土坑全景（北西から）
　　北東部埋没谷東壁Ｔ土層断面①
　　（南東から）
ＰＬ．３　北東部埋没谷東壁Ｔ土層断面②
　　（東から）
　　北東部埋没谷３Ｔ土層断面
　　（北東から）
　　北東部埋没谷４Ｔ土層断面（南から）
　　南西部埋没谷３Ｔ土層断面
　　（南東から）
　　南西部埋没谷５Ｔ土層断面
　　（南西から）
　　南西部埋没谷 16 Ｔ土層断面
　　（南東から）
ＰＬ．４　南西部埋没谷 17 Ｔ掘削状況（北から）
　　作業風景
　　遺物写真

第１章　　調査に至る経緯

平成28年８月、土地所有者であるローズベイカントリークラブより、大規模太陽光発電所建設に係わる埋蔵文化財の取り扱いについての照会があった。事業地は埋蔵文化財包蔵地内であり、蔵人城跡が存在することから、事業実施に先立ちそれらの取り扱いについて事前協議を実施する必要のある旨を伝えた。

その後、事業主である株式会社クリーンエネルギー研究所、設計業者である株式会社ソーコーと市教育委員会の間で文化財保護のための協議を行った。協議においては、文化財保護のための計画変更を含め再三にわたり行われた。しかし、計画変更を行っても埋蔵文化財への影響は避けられないことから、当初の計画どおり事業を実施することとなった。そのため、発掘調査による記録保存の措置を講ずることとなった。

発掘調査については、事業主が民間調査組織での対応を望み、株式会社測研との契約を行ったため、株式会社クリーンエネルギー研究所・株式会社測研・安中市教育委員会の三者において「大規模太陽光発電所―ビッククリーンエネルギー群馬発電所に伴う埋蔵文化財発掘調査の取り扱いに関する協定書」を取り交わした。

その後、安中市教育委員会の指導の下、記録保存の調査が行われた。

第２章　　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置と周辺の地形

蔵人城跡は、安中市中秋間に所在する中世の並郭式山城である。本遺跡の所在する安中市は群馬県南西部に位置し、東西方向に細長い形をしている。関東平野の北西端部にあたり、東側の標高が低く西へ向かって高くなる関東平野から関東山地へと移行する場所である。中秋間は安中市の東部に位置しており、安中市街地から北西約2.3㎞の場所にある。中央付近を秋間川が西北西－東南東方向に流れ、秋間川に沿うように県道215号線（恵宝沢原貝戸線）が横断している。

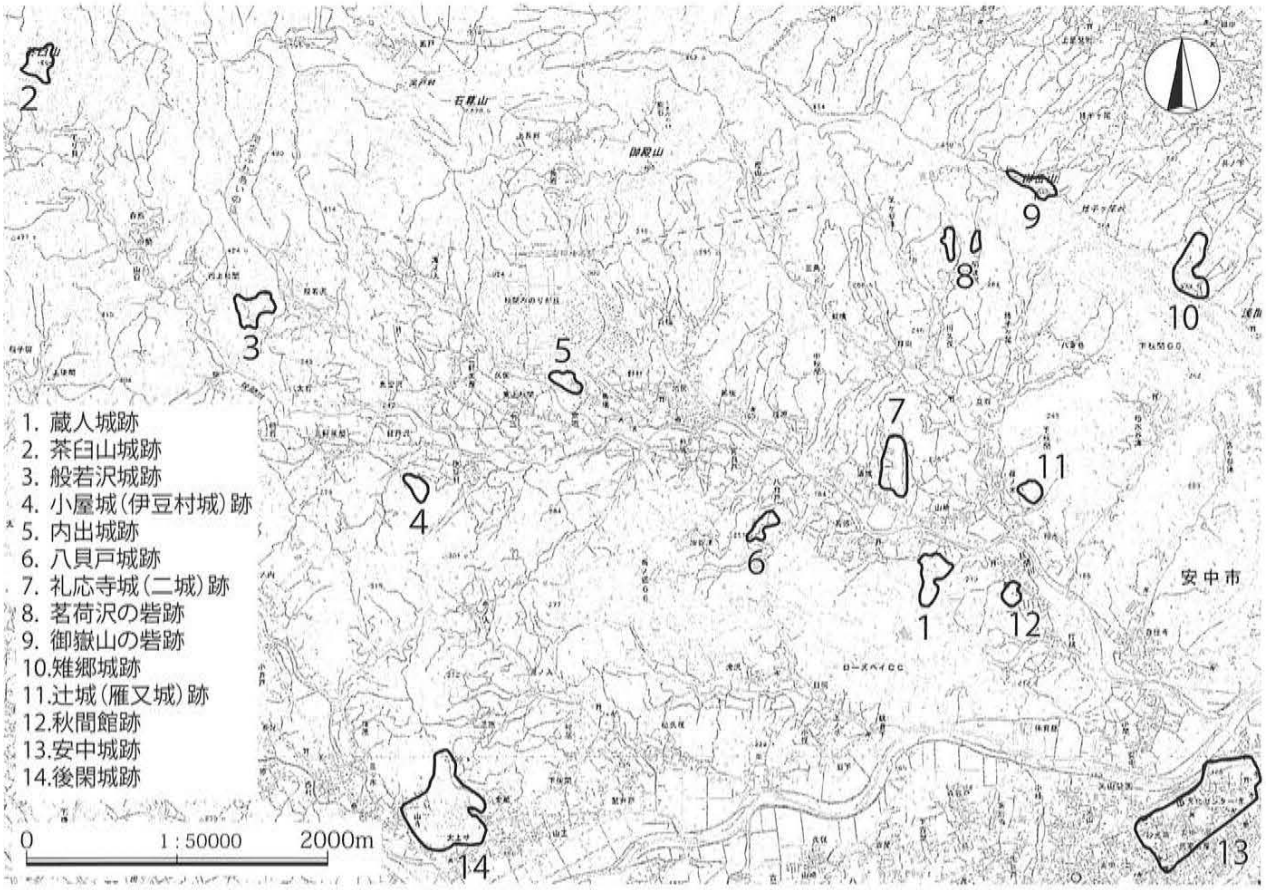
本遺跡は、高崎市との境をなす秋間丘陵の分岐丘陵である後閑丘陵の東端部に立地する。後閑丘陵は、南側を碓氷川の支流である九十九川で、北側と西側を九十九川の支流である秋間川と増田川で形成された谷底平野に挟まれており、東側を頂点とした東西方向に細長い三角形状を呈する。丘陵のやや西側を後閑川が北西－南東方向に流れており、丘陵を東西に分けている。標高約350ｍよりも低い丘陵東側は開析が進み、小さな谷が多数形成されている。本遺跡は秋間川に面した南南西－北北東方向に延びる小尾根上に位置しており、北側の谷底平野との比高差は40ｍほどである。本調査区の現況はゴルフ場で、標高は200～208ｍである。中央部が最も高く、尾根の進行方向において付け根及び先端の両方に向かって低く傾斜している。

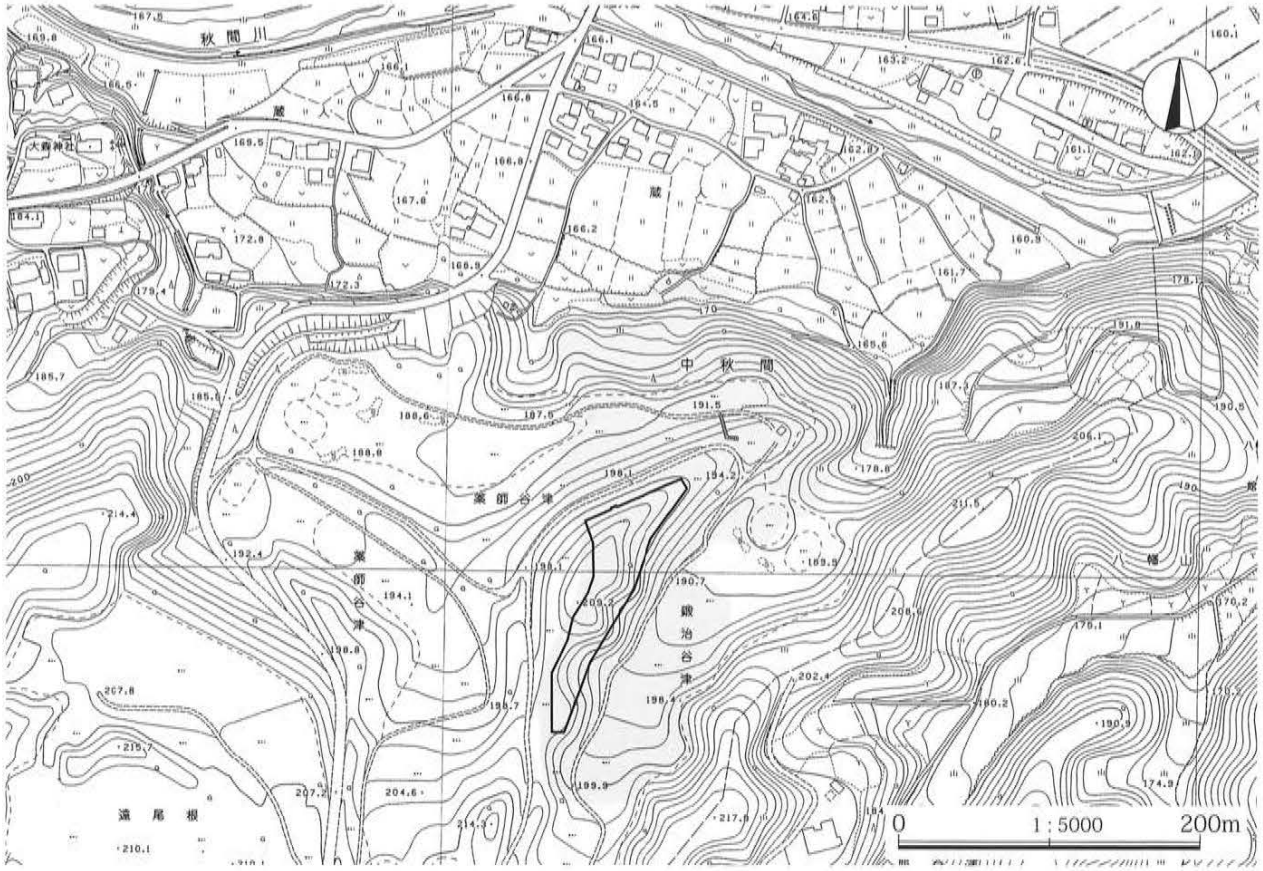
第２節　周辺の遺跡

群馬県安中市は、東山道や鎌倉から武蔵国・上野国の国府を通り碓氷峠を経由して信濃国へと至る鎌倉街道上道が東西に走っており、古来より交通の要衝であった。16世紀後半には上杉氏、武田氏、北条氏による勢力争いが繰り広げられ、武田信玄は弘治三年（1557年）の瓶尻の戦いから西上野への侵攻を開始した。西上野侵攻の目的は、西上野最大の箕輪衆長野業正を服属させ上杉謙信の関東経営を阻止することであったことから、箕輪城を攻め落とすために信濃から上野への通り道である安中地域を抑えておく必要があった。このような当時の状況は中世城館跡の分布状況にも反映されている。

安中市の中世城館跡の分布状況は大きく３つの地域に区分することができる。１つは西からの進入ルートを抑える場所である碓氷川と九十九川に挟まれた台地（低位段丘）、１つは先述の台地を望む場所である碓氷川右岸の河岸段丘上、１つは秋間川流域の谷底平野を見下ろす位置である秋間川両岸の丘陵上である。蔵人城跡は秋間丘陵の分岐丘陵である後閑丘陵上に位置していることから、秋間川流域の丘陵上にある中世城館跡について概観したい。

秋間川流域の丘陵上には11城の城跡と１軒の居館跡が築造されている。それらは秋間地域城を形成すると考えられ、飽間氏がその地域を治めていた。主体となる城は秋間川左岸の東上秋間馬場にある内





第１図　周辺遺跡図（1/50,000）・調査区位置図（1/5,000）

出城跡（第１図５、以下第１図略）であり、秋間川上流最奥の茶臼山城跡（２）は詰の城となる。２つの城の中間には般若沢城跡（３）があり、般若沢城跡と内出城跡のほぼ中間の対岸には小屋城跡［伊豆村城跡］（４）がある。秋間川下流左岸の辻城跡［雁又城跡］（11）と右岸の蔵人城跡（１）は地域城域の入り口を抑え、背後にはそれぞれ礼応寺城跡［二城］（７）、八貝戸城跡（６）が控えている。蔵人城跡の東には秋間館（12）がある。これらの城館跡は秋間川流域の低地を見下ろす丘陵先端部に造られている。礼応寺城跡の北側丘陵頂部付近に茗荷沢の砦（８）、丘陵頂部に御嶽山の砦（９）、雉郷城跡（10）があり、これは遠く広範囲を見張るためのものと考えられる。内出城跡は吉良氏・飽間氏、茶臼山城跡は飽間氏、辻城跡、蔵人城跡、礼応寺城跡、八貝戸城跡はそれぞれ秋間七騎の赤見藤九郎、島崎蔵人、東城但馬、深堀藤右衛門が城主であると伝えられている。蔵人城跡と赤見藤九郎が守っていた礼応寺城跡は永禄六年（1563 年）に武田勢の那波無理之助によって攻め落とされている。

安中市内に分布する中世城館跡は、築城時期や築・在城者が明確なものが少ないが、ほとんどの城館跡が 16 世紀後半の上杉氏、武田氏、北条氏による勢力争いが展開されていた時期のものと考えられ、その存続期間は短く、武田氏が滅亡した後は急速に衰退し廃城となっている。

第３章　調査方法と調査の経過

第１節　調査方法

蔵人城跡の発掘調査は、大規模太陽光発電所の建設に伴い削平され消失してしまう部分において工事を行う前に実施した記録保存調査である。したがって、削平される尾根の標高 201 ～ 202 ｍよりも高い部分が発掘調査の対象となった。調査範囲は北側、東側、南側及び西側の南部約１/４が標高によって、西側の残りがマッピングぐんま（遺跡・文化財）の蔵人城跡の遺跡範囲によって決定された。現地での調査範囲の設定は、縮尺の小さい工事用設計図面を基に座標値を割り出して行った。現地には蔵人城跡の遺跡範囲が提示されておらず、図面上の１㎜が実際には４ｍ弱になることから、遺跡範囲に関しては数ｍ程度の誤差が生じているものと思われる。調査区の形は現状の尾根の形状に即したものとなっており、調査面積は約 4,500㎡である。

遺構の確認は、試掘調査が行われていなかったため、調査区北東端部の丘陵頂部にトレンチを入れて土層を確認し、それを基に重機によって表土掘削を行い、にぶい黄褐色系統の土（Ⅳ層、第４章基本土層参照）上面を人力で鋤簾を用いて削り遺構確認作業を行った。しかし、尾根南東斜面及び調査区中央部の尾根頂部はゴルフ場造成時に盛土されており、その盛土は丘陵を削ったと思われる土を使用していたことから地山と非常に似ており地山と誤認してしまった。

尾根南東斜面の埋没谷は、遺構と判断したものを半截した際に盛土が残っていることが確認されたためその存在が判明した。調査区東壁際にトレンチ掘削を行い状況の確認を行った後、安中市教育委員会と協議した結果、尾根南東斜面は急傾斜であるため重機が入って掘削を行うのは危険であることも考慮し、トレンチ調査を行い埋没谷の範囲を確認することで良い、ということになった。調査区中央部の尾根頂部は基本土層の断面図を作成するためトレンチ掘削を行ったところ盛土が残っていることが確認され、再度重機による掘削を行った。

遺構の掘り下げは、土坑・ピットは平面形や大きさに応じて適宜半截位置及び十字ベルトを設定し掘り下げを行った。埋没谷は現況の地形から谷の形状を想定し、上場が確認できると思われる場所にトレンチを設定し掘削を行った。トレンチの中には想定を誤り谷の内側に位置するものも見られる。

遺物の取り上げは、今回確認された遺構では図化及び座標値測量を必要とする遺物が出土しなかったため、すべて遺構覆土で取り上げた。遺構外出土遺物は、調査区を中央部の尾根頂部平坦面及び南東斜面、その北東側の尾根及び北西・南東斜面と、南西側の平坦面及び南東斜面の３つに分け、北からⅠ区、Ⅱ区、Ⅲ区で取り上げた。

遺構の記録は、遺構実測図作成及び写真撮影を実施している。遺構実測図は、光波測距儀を用いて全体図を１/500 及び１/200、遺構平面図を１/40、遺構断面図を１/20 の縮尺で図化した。ピットは土層断面図を作成せず、土層注記・断面写真撮影後に完掘したが、必要に応じてエレベーション図を作成した。地形測量は、遠隔操縦式の小型無人航空機（ドローン）を用いた空中写真測量を行って図化した。写真撮影は、約 1,800 万画素のデジタル一眼ノンレフレックスカメラを使用し、同一カットを３枚１単

位で露出を変えて撮影を行った。空中写真撮影は遠隔操縦式の小型無人航空機を用いてデジタルカメラで撮影を行った。

第２節　調査の経過

調査日誌抄

平成 29 年４月 ３日　調査範囲設定、発掘調査道具搬入、プレハブ・トイレ搬入。
平成 29 年４月 ４日　表土掘削開始。
平成 29 年４月 ５日　作業員雇用開始、遺構確認作業開始。
平成 29 年４月 ６日　遺構精査開始。
平成 29 年４月 18 日　表土掘削終了。
平成 29 年４月 21 日　調査区北東部埋没谷トレンチ調査開始。
平成 29 年４月 24 日　安中市教育委員会千田氏来跡、埋没谷の調査方法を確認。
平成 29 年４月 25 日　遺構精査終了、南東部埋没谷トレンチ調査開始。
平成 29 年４月 27 日　重機によるⅡ・Ⅲ区の盛土再掘削開始。
平成 29 年５月 １日　重機によるⅡ・Ⅲ区の盛土再掘削終了。
平成 29 年５月 10 日　埋没谷トレンチ調査終了。
平成 29 年５月 11 日　空中写真撮影実施、安中市教育委員会千田氏来跡、調査終了を確認。
平成 29 年５月 12 日　発掘調査道具片付け、搬出。
平成 29 年５月 16 日　プレハブ・トイレ搬出。
平成 29 年５月 19 日　空撮の対空標識回収、発掘調査終了。

第４章　確認された遺構と遺物

第１節　蔵人城跡の概要

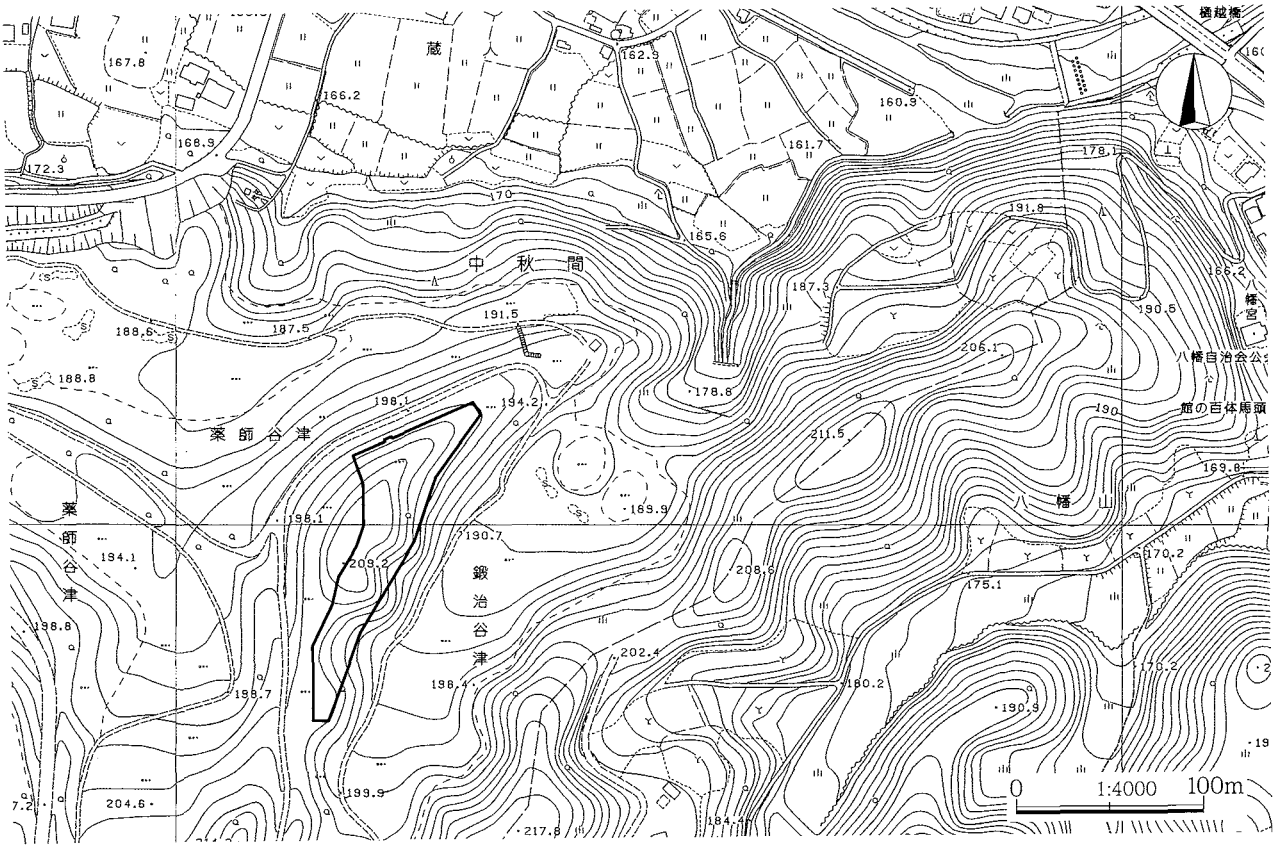
蔵人城跡は、後閑丘陵東端部北縁の秋間川を望む小尾根に造られた並郭式山城である。築造年代は不明であるが、16 世紀後半戦国時代の上杉氏・武田氏・北条氏による勢力争いが行われていた時期のものと考えられる。永禄六年（1563 年）に武田勢の那波無理之助に攻め落とされ、その後廃城となっている。秋間七騎のひとり島崎蔵人が城主であったと言われており、城名の由来になっている。

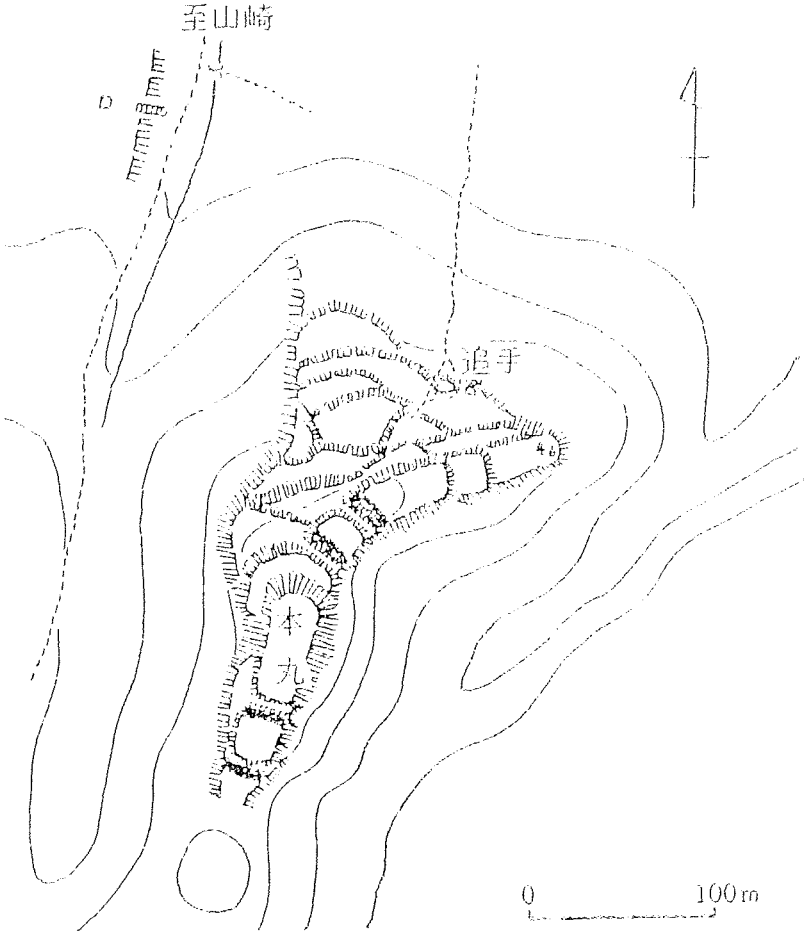
山崎一氏によって現地踏査を基にした精密な略測図が作成されており、『群馬県古城塁址の研究　下巻』（1972 年）、『日本城郭大系４』（1979 年）に城跡の様相が記されている。前者には「本丸とその南の郭とは下郭よりも一〇ｍ以上高い、この二つの郭の連絡のため共通の腰曲輪が西側にある。本丸の北にも腰曲輪があり、東北に二つの堀切りに挟まれた一小郭を距てて長さ一二〇ｍ、幅二五ｍの下曲輪がある。これ等の五郭は東北―西南に弧を画いて並び、東南側は急傾斜し登るのに困難である。北西側には数段の腰曲輪がつき、追手は北、搦手は南で、北の中腹に喰違い構造の虎口があり、土居が遺っている。城の南北は二五〇ｍ、北端の幅一五〇ｍで、三角形をなす。」、後者には「北から南に突出する尾根の先端に二五ｍ×六〇ｍの本丸があり、南に堀切を界して方二〇ｍの第二郭が並ぶ。本丸の北一〇ｍ下に三日月形の腰廓が付き、東北一四〇ｍの所まで三段の郭が延びる。その西北に数段の腰廓が重なり、北に追手虎口を構えている。」と記載されている。

蔵人城跡は過去に発掘調査が実施されている。『安中市史　第四巻　原始古代中世資料編』の中世城館址一覧に「昭和五六年発掘調査（県教委）。一部を残し消滅。」との記述があるが、発掘調査成果の記述や発掘調査地点などの図面はなく、発掘調査の詳細は不明となっている。

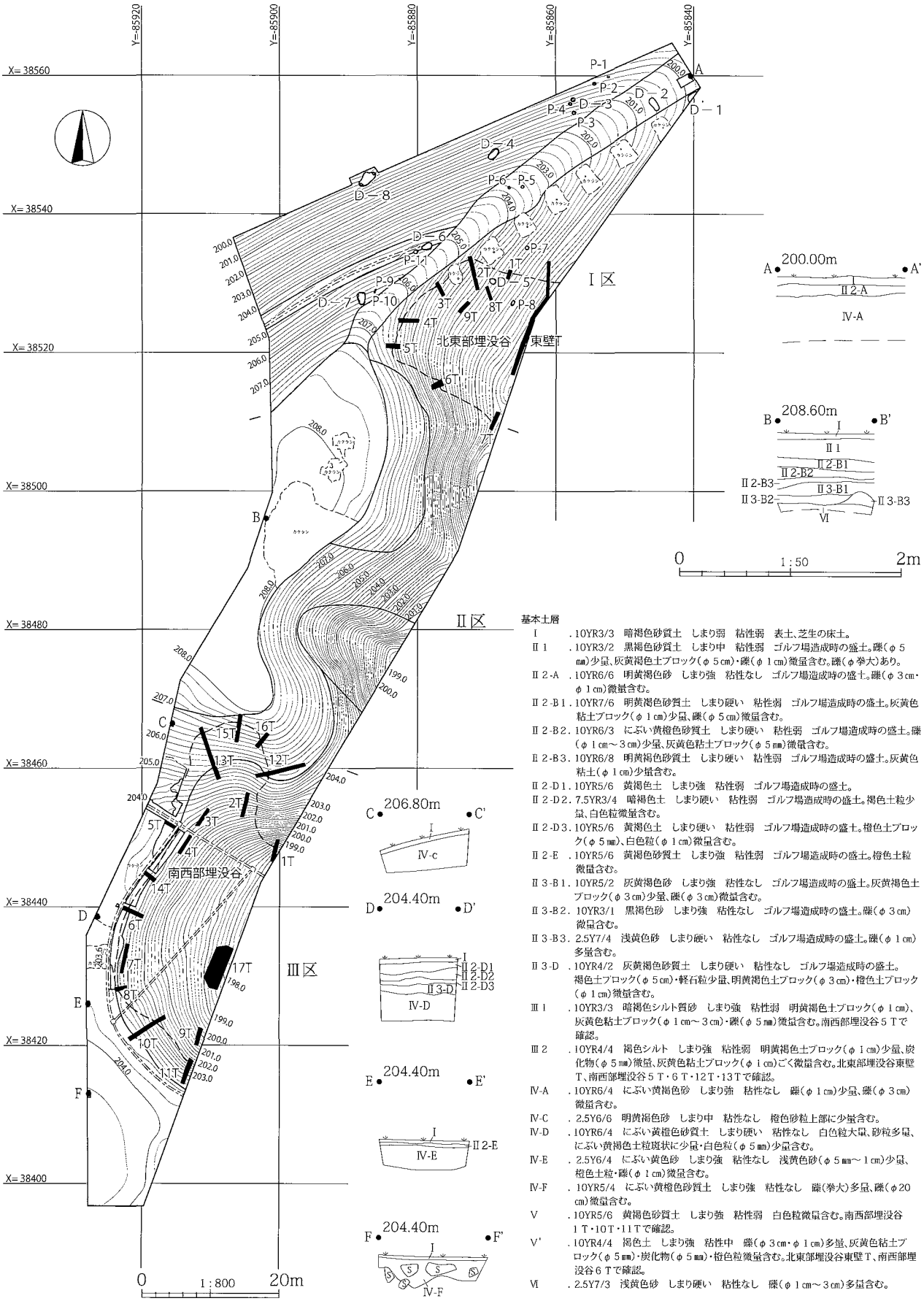
第２節　遺構の分布と基本土層

遺構分布　今回の蔵人城跡の発掘調査では、土坑８基、ピット 11 基と、ゴルフ場造成時に埋められた谷地形（埋没谷）２か所が確認された。５号土坑と８号ピットは調査の結果、造成時の盛土面で確認されたもので現代遺構と判明したが、カクランとはせずに報告した。その他の遺構については、発掘調査範囲内の尾根上部はゴルフ場造成時に削平された状況が確認されたこと、遺構からは遺物が出土しなかったことから、時期の判断はできなかった。すべての遺構は尾根頂部が北東方向へ低く傾斜するⅠ区





第２図　現況地形図（1/4,000）・山崎一氏の略測図（1979年『日本城郭大系4』の図）（1/4,000）



基本土層

I　.10YR3/3　暗褐色砂質土　しまり弱　粘性弱　表土、芝生の床土。

II 1　.10YR3/2　黒褐色砂質土　しまり中　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ5㎜)少量、灰黄褐色土ブロック(φ5㎝)・礫(φ1㎝)微量含む。礫(φ拳大)あり。

II 2-A　.10YR6/6　明黄褐色砂　しまり強　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ3㎝・φ1㎝)微量含む。

II 2-B1.10YR7/6　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)少量、礫(φ5㎝)微量含む。

II 2-B2.10YR6/3　にぶい黄橙色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝～3㎝)少量、灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)微量含む。

II 2-B3.10YR6/8　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土(φ1㎝)少量含む。

II 2-D1.10YR5/6　黄褐色土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。

II 2-D2.7.5YR3/4　暗褐色土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。褐色土粒少量、白色粒微量含む。

II 2-D3.10YR5/6　黄褐色土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。橙色土ブロック(φ5㎜)、白色粒(φ1㎝)微量含む。

II 2-E　.10YR5/6　黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。橙色土粒微量含む。

II 3-B1.10YR5/2　灰黄褐色砂　しまり強　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄褐色土ブロック(φ3㎝)少量、礫(φ3㎝)微量含む。

II 3-B2.10YR3/1　黒褐色砂　しまり強　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ3㎝)微量含む。

II 3-B3.2.5Y7/4　浅黄色砂　しまり硬い　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)多量含む。

II 3-D　.10YR4/2　灰黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。褐色土ブロック(φ5㎝)・軽石粒少量、明黄褐色土ブロック(φ3㎝)・橙色土ブロック(φ1㎝)微量含む。

III 1　.10YR3/3　暗褐色シルト質砂　しまり強　粘性弱　明黄褐色土ブロック(φ1㎝)、灰黄色粘土ブロック(φ1㎝～3㎝)・礫(φ5㎜)微量含む。南西部埋没谷5Tで確認。

III 2　.10YR4/4　褐色シルト　しまり強　粘性弱　明黄褐色土ブロック(φ1㎝)少量、炭化物(φ5㎜)微量、灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)ごく微量含む。北東部埋没谷東壁T、南西部埋没谷5T・6T・12T・13Tで確認。

IV-A　.10YR6/4　にぶい黄褐色砂　しまり強　粘性なし　礫(φ1㎝)少量、礫(φ3㎝)微量含む。

IV-C　.2.5Y6/6　明黄褐色砂　しまり中　粘性なし　橙色砂粒上部に少量含む。

IV-D　.10YR6/4　にぶい黄橙色砂質土　しまり硬い　粘性なし　白色粒大量、砂粒多量、にぶい黄褐色土粒斑状に少量・白色粒(φ5㎜)少量含む。

IV-E　.2.5Y6/4　にぶい黄色砂　しまり強　粘性なし　浅黄色砂(φ5㎜～1㎝)少量、橙色土粒・礫(φ1㎝)微量含む。

IV-F　.10YR5/4　にぶい黄橙色砂質土　しまり強　粘性なし　礫(拳大)多量、礫(φ20㎝)微量含む。

V　.10YR5/6　黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　白色粒微量含む。南西部埋没谷1T・10T・11Tで確認。

V'　.10YR4/4　褐色土　しまり強　粘性中　礫(φ3㎝・φ1㎝)多量、灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)・炭化物(φ5㎜)・橙色粒微量含む。北東部埋没谷東壁T、南西部埋没谷6Tで確認。

VI　.2.5Y7/3　浅黄色砂　しまり硬い　粘性なし　礫(φ1㎝～3㎝)多量含む。

第3図　調査区全体図・基本土層図

で確認された。尾根頂部に２号土坑と５号・６号ピット、北西斜面に３号・４号・６号～８号土坑と１号～４号・９号～11号ピット、南東斜面に１号・５号土坑と７号・８号ピットが分布しているが、規則性や分布の特徴は見られなかった。埋没谷は調査区北東部のⅠ区と調査区南西部のⅢ区の南東斜面に１か所ずつ確認された。　**基本土層**　調査範囲が北東－南西方向に長く、尾根中ほどから先端部付近まで含まれることから堆積状況に違いが見られると想定される。そのため、Ⅰ区調査区北東端部（第３図Ａ、以下第３図略)、Ⅱ区調査区西壁際（Ｂ)、Ⅲ区調査区の南斜面西壁際（Ｃ）と平坦部西壁際（Ｄ・Ｅ・Ｆ）の計６か所で基本土層の確認を行った。Ⅰ層は表土で、ゴルフ場造成時に張られた芝生の床土である。Ⅱ層はゴルフ場造成時になされた盛土で、大きく３層に分けられる。Ⅱ１層はⅡ区でのみ確認された黒褐色砂質土である。Ⅱ２層は明黄褐色土が主体となるものである。削平されたⅣ層の土が利用されたものと考えられ、地山と酷似していた。Ⅱ３層は灰黄褐色砂が主体となるものである。Ｂ・Ｄの２か所で確認されており、Ｂでは亜層が見られる。Ⅲ層は暗褐色シルト質砂・褐色シルトが主体となるものである。北東部・南西部埋没谷でのみ確認されており、尾根頂部では削平され消滅したものと考えられる。Ⅳ層はにぶい黄褐色砂質土が主体となるものである。場所によっては礫が多量に含まれる砂礫層の様相を示す。Ⅴ層は黄褐色砂質土が主体となるもので、亜層が見られる。Ⅲ層と同様、北東部・南西部埋没谷でのみ確認されたが、Ⅰ・Ⅲ区の尾根頂部ではその土層まで至っていないと考えられる。Ⅵ層は浅黄色砂で、礫を多量に含む砂礫層である。砂礫層であることから最も深い地盤の土層であると考えられ、Ⅱ区の尾根頂部はかなり深く削平されたものと思われる。

第３節　土坑・ピット

今回の発掘調査では土坑８基、ピット11基が確認された。ピットは遺構数が少なく、掘立柱建物跡や柵列などを構成するものは見られなかった。土坑については個別に記載し、ピットは遺構観察表に記載する。

１号土坑　（第４図、ＰＬ．２）

位置　調査区北東部(Ⅰ区)。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　南東側が調査区外にあるが、概ね良好。　**覆土**　上層は暗褐色土、下層は黒褐色土である。　**平面形と規模**　平面形は大半が調査区外にあるため不明である。規模は長軸0.90ｍ以上、短軸1.82ｍ以上、確認面からの深さは33㎝以上を測る。　**長軸方向**　Ｎ―33°―Ｗ。　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　未検出のため不明である。　**遺物**　近代磁器と土師器片が出土したが、図示し得るものはなかった。　**備考**　大半が調査区外にあるため性格は不明であるが、本遺構の南西側に一列に並ぶカクラン（現代植栽痕）の直線上にあり、付近に切り株があることから、本遺構も現代の植栽痕である可能性が高いと考えられる。

２号土坑　（第４図、ＰＬ．２）

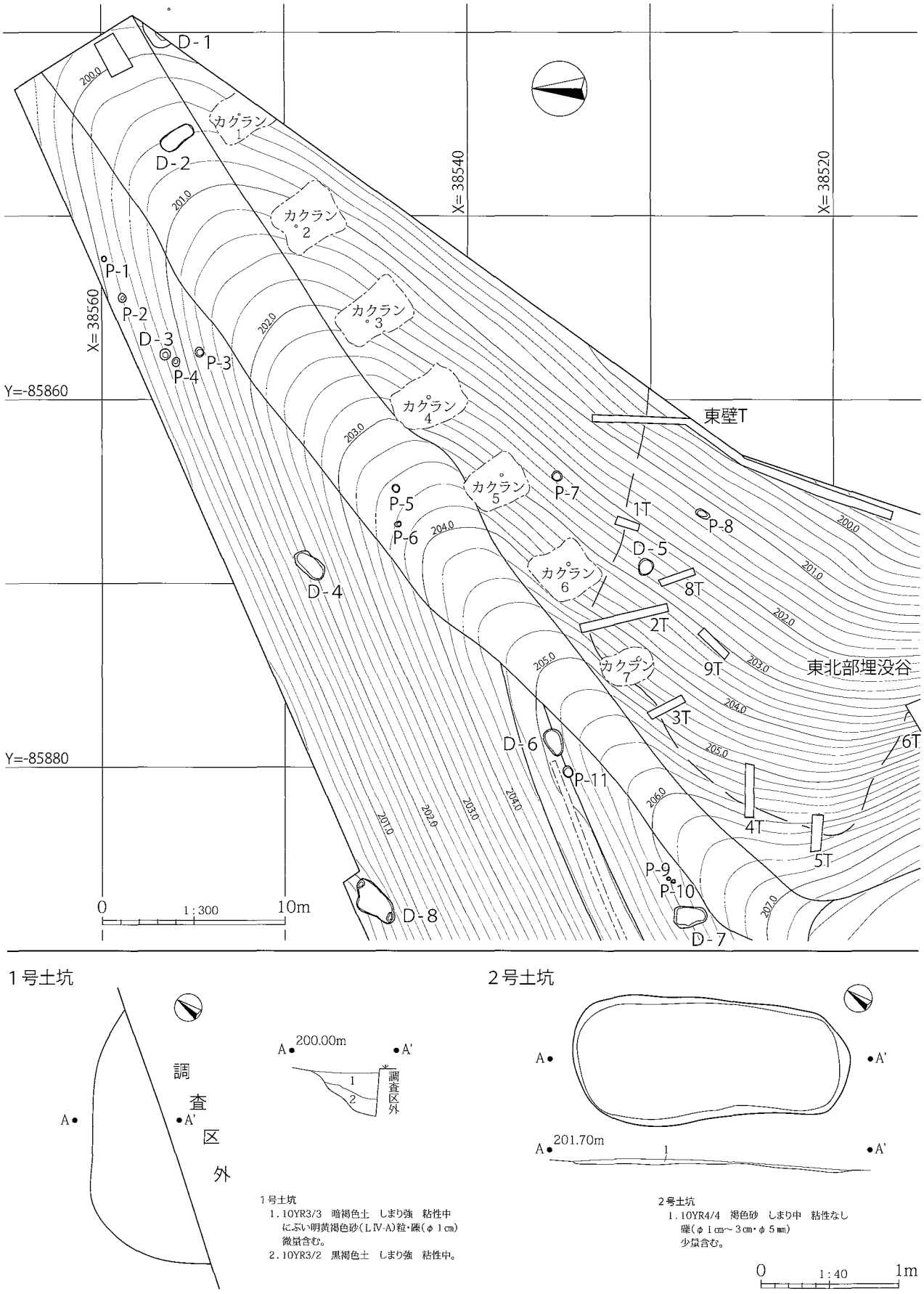
位置　調査区北東部（Ⅰ区)。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　上部が削平されており、非常に浅い。　**覆土**　褐色砂である。　**平面形と規模**　平面形は隅丸長方形を呈する。規模は長軸2.06ｍ、短軸0.98ｍ、確認面からの深さは３㎝を測る。　**長軸方向**　Ｎ―32°―Ｗ。　**壁面**　非常に緩やかに立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。　**遺物**　なし。　**備考**　本遺構は、上部が削平され遺存状況が悪く、形態に特徴がないことから、性格は不明である。出土遺物がないことから、帰属時期は不明である。

３号土坑　（第４・５図、ＰＬ．２）

位置　調査区北東部（Ⅰ区)。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　上部が多少削平されたと思われる。　**覆土**　上層はにぶい黄褐色砂、下層は黄褐色砂である。　**平面形と規模**　平面形は円形を呈する。規模は直径0.61ｍ、確認面からの深さは22㎝を測る。　**長軸方向**　なし。　**壁面**　大きく外傾して立ち上がる。　**底面**　西側に向かって緩やかに傾斜する。　**遺物**　なし。　**備考**　本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。出土遺物がないことから、帰属時期は不明である。

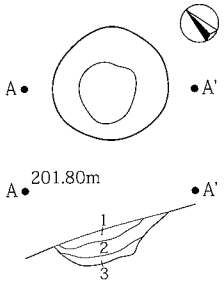
４号土坑　（第４・５図、ＰＬ．２）

位置　調査区北東部（Ⅰ区)。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　上部が多少削平されたと思われる。　**覆土**　上層は暗褐色砂質土、下層は褐色砂質土である。　**平面形と規模**　平面形は隅丸長方形を呈する。



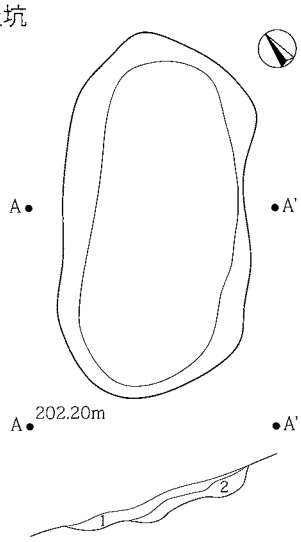
第４図　Ⅰ区調査区遺構配置図、１号・２号土坑平面図・断面図

3号土坑



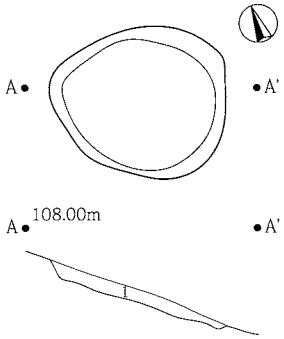
3号土坑
1. 10YR5/4　にぶい黄褐色砂　しまり弱　粘性なし　礫(φ1㎝)少量含む。
2. 10YR5/4　にぶい黄褐色砂　しまり中　粘性なし。
3. 10YR5/6　黄褐色砂　しまり中　粘性なし。

4号土坑



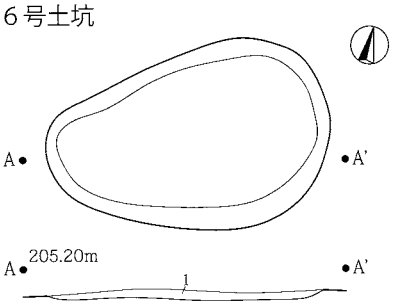
4号土坑
1. 10YR5/4　にぶい黄褐色砂　しまり弱　粘性なし　礫(φ1㎝)少量含む。
2. 10YR5/4　にぶい黄褐色砂　しまり中　粘性なし。

5号土坑



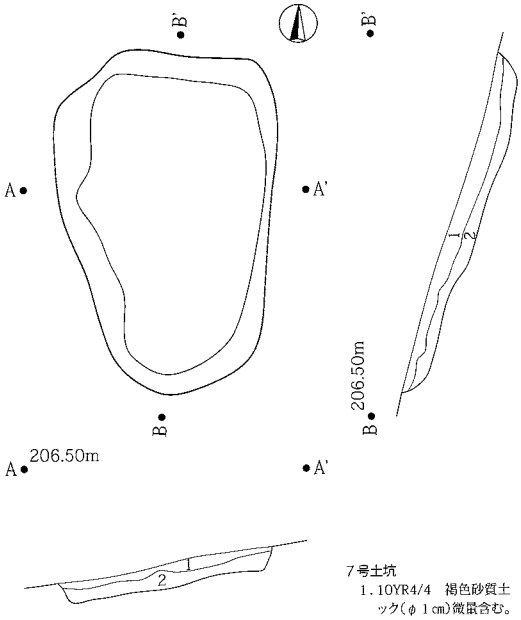
5号土坑
1. 10YR4/4　褐色砂質土　しまり中　粘性弱　黒褐色土粒・灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)・礫(φ3㎝・φ1㎝)微量含む。

6号土坑



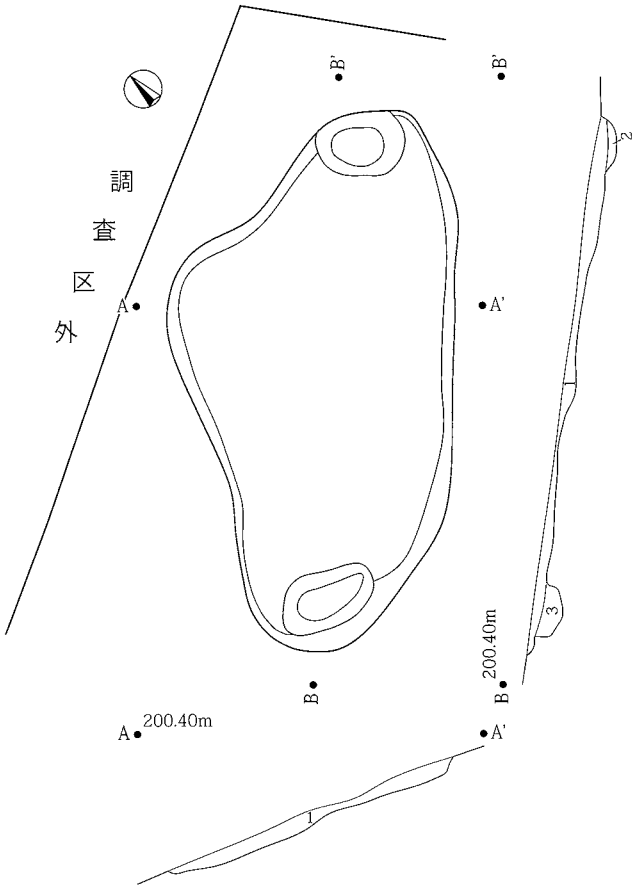
6号土坑
1. 10YR5/4　にぶい黄褐色砂　しまり中　粘性なし　灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)・礫(φ1㎝)微量含む。

7号土坑



7号土坑
1. 10YR4/4　褐色砂質土　しまり中　粘性中　灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)微量含む。
2. 10YR3/4　にぶい黄褐色土　しまり弱　粘性強　灰黄色粘土粒・礫(φ1㎝)微量含む。

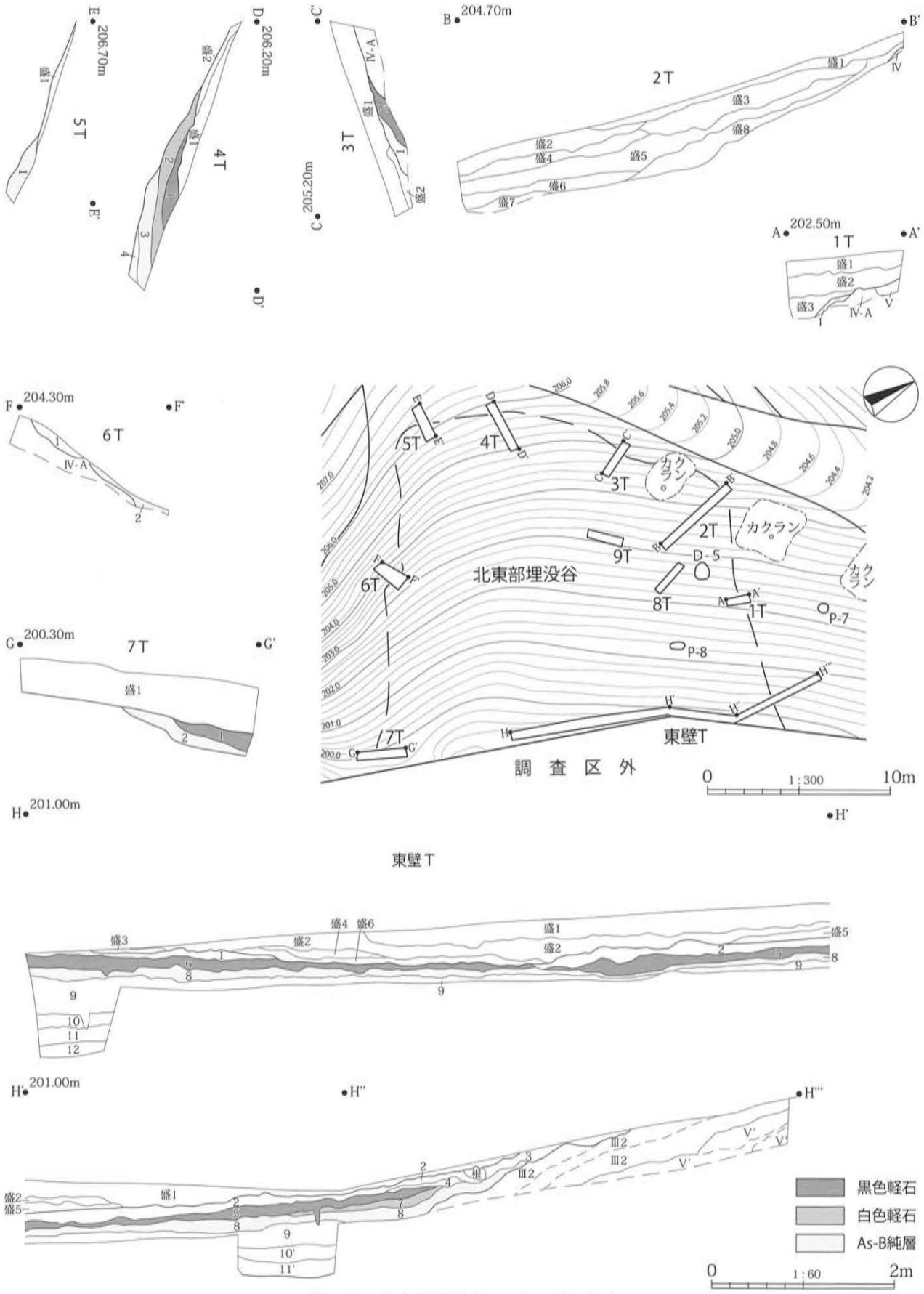
8号土坑



8号土坑
1. 10YR3/3　暗褐色砂質土　しまり強　粘性弱　礫(φ5㎜)微量含む。
2. 10YR4/3　にぶい黄褐色砂　しまり強　粘性なし　礫(φ1㎝)少量、礫(φ5㎝)微量含む。
3. 10YR4/3　にぶい黄褐色砂　しまり強　粘性なし　灰黄色粘土粒・礫(φ1㎝)微量含む。

0　1:40　1m

第5図　3号～8号土坑平面図・断面図



第６図　北東部埋没谷平面図・断面図

1T
盛1 .10YR5/8 黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝～3㎝)少量、灰黄色粘土ブロック(φ3㎝)・橙色土ブロック(φ1㎝)微量含む。褐色土ブロック(φ5㎝)あり。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 .10YR6/6 明黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝～3㎝)少量、灰黄色粘土ブロック(φ3㎝～5㎝・φ5㎜)・橙色土ブロック(φ1㎝～3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛3 .10YR4/4 褐色砂質土 しまり強 粘性なし ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)・灰黄色粘土粒・礫(φ1㎝)少量含む。橙色土ブロック(φ5㎝)あり。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 .10YR5/4 にぶい黄褐色砂 しまり弱 粘性なし As-B軽石多量含む。

2T
盛1 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量含む。明黄褐色砂ブロック(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量、礫(φ5㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛3 .10YR4/4 褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ5㎜)多量、明黄褐色砂ブロック(φ5㎝)少量、明黄褐色砂ブロック(φ15㎝)・礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛4 .10YR5/6 黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量、橙色土ブロック(φ1㎝)・礫(φ5㎝)含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛5 .10YR5/6 黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量、明黄褐色砂ブロック(φ3㎝)・礫(φ3㎝～5㎝)含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛6 .10YR6/6 明黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝～3㎝)少量、橙色土粒微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛7 .2.5Y6/4 にぶい黄色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量、明黄褐色砂ブロック(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛8 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。明黄褐色砂(φ3㎝)・礫(φ3㎝・φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2層に対応する。

3T
盛1 .10YR5/6 黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ3㎝)・礫(φ3㎝)少量、灰黄色粘土ブロック(φ5㎝)・橙色土ブロック(φ3㎝)・礫(φ5㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 .10YR4/4 褐色土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土粒少量、灰黄色粘土ブロック(φ3㎝)・橙色土ブロック(φ1㎝)・As-B軽石微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 黒色軽石少量、橙色土粒・礫(φ1㎝)微量含む。
2 .10YR3/2 黒褐色砂質土 しまり中 粘性弱 As-B軽石少量、礫(φ1㎝)微量含む。

4T
盛1 .10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし ゴルフ場造成時の盛土。明黄褐色砂質土粒・灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)少量、橙色土ブロック(φ1㎝)・礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2層に対応する。
盛2 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性なし ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)・礫(φ5㎜)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 .10YR3/2 黒褐色砂 しまり弱 粘性なし 黒色軽石(φ1㎝～3㎝、As-Aか)大量含む。
2 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂 しまり弱 粘性なし 白色軽石(φ1㎝、As-Aか)大量含む。
3 .10YR6/3 にぶい黄色軽石 しまりなし 粘性なし As-B軽石純層。
4 .10YR4/4 褐色砂質土 しまり強 粘性弱 礫(φ1㎝)多量含む。

5T
盛1 .10YR5/4 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)・褐色土ブロック(φ3㎝)・礫(φ1㎝～3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2層に対応する。
1 .2.5Y5/3 にぶい黄色軽石 しまりなし 粘性なし As-B軽石純層。

6T
1 .10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性なし 旧表土と思われる。
2 .2.5Y5/3 にぶい黄色軽石 しまりなし 粘性なし As-B軽石純層。

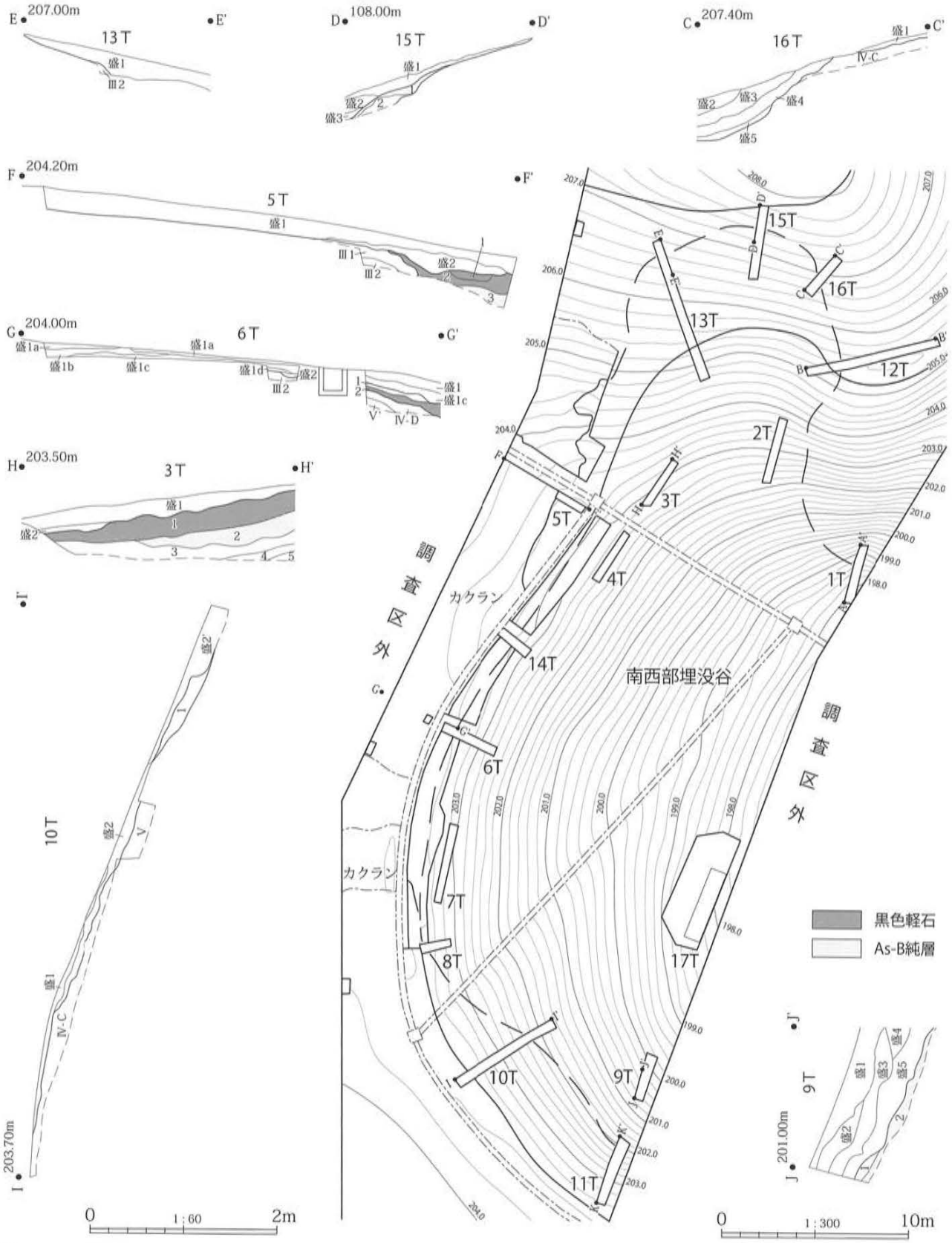
7T
盛1 .10YR5/6 黄褐色砂質土 しまり中 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量、礫(φ5㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 .10YR4/2 灰黄褐色砂 しまりなし 粘性なし 黒色軽石多量含む。
2 .2.5Y5/3 にぶい黄色軽石 しまりなし 粘性なし As-B軽石純層。
3 .10YR3/3 暗褐色砂質土 しまり強 粘性なし As-B軽石少量、橙色土粒・礫(φ1㎝)微量含む。

東壁T
盛1 .10YR4/4 褐色砂質土 しまり硬い 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。明黄褐色砂質土粒上層に多量、灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)少量、礫(φ1㎝～3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2層に対応する。
盛2 .7.5YR4/4 褐色砂質土 しまり硬い 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土粒・礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛3 .10YR3/4 暗褐色砂質土 しまり硬い 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝～3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛4 .10YR4/4 褐色砂質土 しまり硬い 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。As-B軽石・礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛5 .10YR2/3 暗褐色砂質土 しまり硬い 粘性なし ゴルフ場造成時の盛土。As-B軽石少量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛6 .10YR3/3 暗褐色土 しまり硬い 粘性弱 ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土粒・礫(φ5㎜～φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり硬い 粘性弱 灰黄色粘土粒・礫(φ1㎝)微量含む。
2 .10YR4/4 褐色砂 しまり硬い 粘性なし As-B軽石大量、褐色土ブロック(φ3㎝)微量含む。
3 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂 しまり硬い 粘性なし As-B軽石多量、礫(φ5㎜)微量含む。
4 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂 しまり硬い 粘性なし As-B軽石多量、軽石(φ1㎝、As-A軽石か)少量含む。
5 .10YR3/2 黒褐色砂 しまり硬い 粘性なし 黒色軽石大量、礫(φ1㎝)微量含む。
6 .10YR2/2 黒褐色砂質土 しまり強 粘性弱 黒色軽石(As-A軽石か)微量含む。旧表土と思われる。
7 .2.5Y4/3 オリーブ褐色砂 しまり弱 粘性なし As-B軽石多量、白色軽石(φ1㎝、As-A軽石か)少量含む。
8 .2.5Y5/3 黄褐色軽石 しまり弱 粘性なし As-B軽石純層。
9 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂質土 しまり強 粘性弱 橙色土粒・礫(φ1㎝)微量含む。
10 .10YR2/2 黒褐色砂 しまり強 粘性なし
10' .10YR3/2 黒褐色砂質シルト しまり中 粘性弱 橙色土ブロック(φ1㎝)・礫(3㎝)微量含む。
11 .10YR4/3 にぶい黄褐色砂 しまり強 粘性なし
11' .10YR3/3 暗褐色砂質シルト しまり強 粘性中 礫(φ3㎝)少量、橙色土ブロック(φ1㎝)微量含む。
12 .10YR2/2 黒色シルト しまり強 粘性弱 明黄褐色砂ブロック(1㎝)微量含む。

規模は長軸 1.95 m、短軸 1.01 m、確認面からの深さは 12㎝を測る。 **長軸方向** N―42°―E。 **壁面** 北壁・東壁は外傾して立ち上がり、南壁・西壁は非常に緩やかに立ち上がる。 **底面** 凹凸があり、北西側へ傾斜している。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。出土遺物がないことから、帰属時期は不明である。

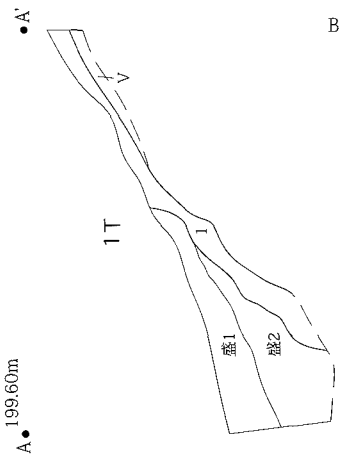
5号土坑 (第4・5図、PL. 2)

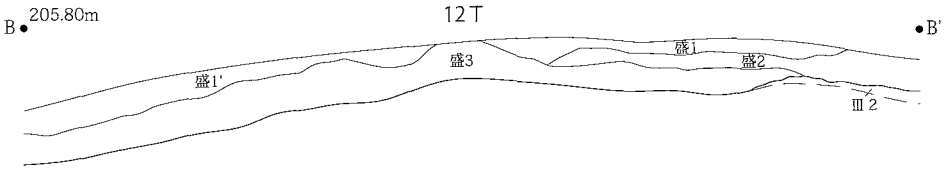
位置 調査区北東部(Ⅰ区)。 **重複関係** なし。 **遺存状態** 概ね良好。 **覆土** 褐色砂質土である。 **平面形と規模** 平面形は不整円形を呈する。規模は長軸 0.95 m、短軸 0.82 m、確認面からの深さは 11㎝を測る。 **長軸方向** N―67°―W。 **壁面** 北壁・南壁・西壁は外傾して立ち上がり、東壁は非常に緩やかに立ち上がる。 **底面** 概ね平坦で、東側へ傾斜する。 **遺物** なし。 **備考** 本遺構の調査後に盛土上に造られていることが判明したことから、本遺構は性格不明の現代遺構である。



1T
盛1．10YR5/6　黄褐色土　しまり強　粘性中　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック（φ1cm）少量、明黄褐色土ブロック（φ1cm）・灰黄色粘土ブロック（φ3cm）・礫（φ1cm）微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2．10YR5/4　にぶい黄褐色土　しまり強　粘性中　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック（φ5mm）少量、明黄褐色土ブロック（φ1cm）・灰黄色粘土ブロック（φ3cm）微量含む。灰黄色粘土ブロック（拳大）・炭化物（φ1cm）あり。基本土層Ⅱ2に対応する。
1．10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　As-B軽石少量、炭化物（φ1cm）・礫（φ1cm）微量含む。

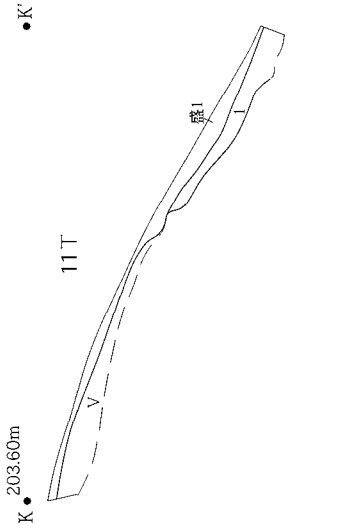
第7図　南西部埋没谷平面図・断面図①





3T
盛1 ．10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量、黄橙色土ブロック(φ5㎜)・橙色土ブロック(φ5㎜)・礫(φ3㎝～5㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 ．10YR4/4　褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。炭化物(φ1㎝)・礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 ．10YR3/3　暗褐色砂　しまり中　粘性中　黒色軽石(As-A軽石か)少量含む。旧表土と思われる。
2 ．2.5Y5/3　黄褐色軽石　しまり弱　粘性なし　As-B軽石純層。
3 ．2.5Y5/3　黄褐色砂質土　しまり中　粘性弱　As-B軽石多量、礫(φ5㎜)微量含む。
4 ．10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　しまり弱　粘性弱　As-B軽石多量、礫(φ5㎜～1㎝)少量含む。
5 ．10YR4/4　褐色砂　しまりなし　粘性なし

5T
盛1 ．10YR6/8　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。橙色土ブロック(φ1㎝～3㎝)・灰黄色粘土ブロック(φ3㎝～5㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 ．10YR4/3　にぶい黄褐色砂　しまり強　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。褐色土ブロック(φ3㎝～5㎝)少量、礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 ．10YR3/1　黒褐色砂　しまり強　粘性なし　黒色軽石(As-A軽石か)多量含む。
2 ．10YR3/2　黒褐色砂　しまり強　粘性なし　黒色軽石(As-A軽石か)多量含む。
3 ．10YR4/2　灰黄褐色軽石　しまり中　粘性なし　As-B軽石純層。



6T
盛1 ．10YR6/6　明黄褐色土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝～3㎝)少量、灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)・橙色土ブロック(φ1㎝)・礫(φ5㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛1a.10YR4/4　褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。橙色土ブロック(φ5㎜)・礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛1b.2.5Y7/6　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)・橙色土粒・礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛1c.10YR6/6　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。黄橙色土ブロック(φ5㎜)・灰黄色粘土粒・橙色土ブロック(φ5㎜)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛1d.10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土粒多量、黄橙色土ブロック(φ5㎜)・橙色土粒微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 ．10YR4/4　褐色土　しまり硬い　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。褐色土ブロック(φ3㎝)・灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)少量、明黄褐色土粒微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 ．10YR3/2　黒褐色砂　しまり強　粘性なし　黒色軽石(As-B軽石か)少量、灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)微量含む。
2 ．10YR3/3　暗褐色砂　しまり強　粘性弱　黒色軽石(As-B軽石か)少量、礫(φ5㎜)微量含む。

9T
盛1 ．10YR6/6　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ5㎝)少量、灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)・橙色土ブロック(φ1㎝)・礫(φ1㎝～3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 ．10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。明黄褐色砂質土ブロック(φ1㎝)・灰黄色粘土粒少量、灰黄色粘土ブロック(φ5㎝・φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛3 ．10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄褐色砂質土粒東側に少量、明黄褐色砂質土ブロック(φ1㎝)・灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)・灰黄色粘土粒微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛4 ．10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　しまり中　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄褐色砂質土粒・灰黄色粘土ブロック(φ3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛5 ．10YR6/6　明黄褐色土　しまり中　粘性中　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ3㎝・φ1㎝)・橙色土ブロック(φ1㎝)微量含む。礫(φ3㎝)あり。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 ．10YR3/2　黒褐色砂質土　しまり中　粘性弱　軽石(As-B軽石か)・礫(φ5㎜)微量含む。旧表土と思われる。
2 ．2.5Y5/4　黄褐色軽石　しまり弱　粘性なし　As-B軽石純層。

10T
盛1 ．10YR5/6　黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)・橙色土粒・礫(φ3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 ．2.5Y7/6　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。黄褐色砂質土(盛1)粒・灰黄色粘土ブロック(φ1㎝～3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2' ．10YR6/6　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。灰黄色粘土ブロック(φ1㎝)多量、黄褐色砂質土粒・橙色土ブロック(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 ．10YR4/3　にぶい黄褐色砂　しまり強　粘性なし　軽石(As-B軽石か)少量、礫(φ1㎝)微量含む。

11T
盛1 ．10YR6/6　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝～3㎝)少量、灰黄色粘土ブロック(φ5㎜)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 ．10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　しまり中　粘性弱　橙色土粒・軽石(As-B軽石か)微量含む。

12T
盛1 ．10YR4/3　にぶい黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。黄褐色土ブロック(φ3㎝～5㎝)・礫(φ5㎜～1㎝)少量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛1' ．10YR5/6　黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。橙色土ブロック(φ1㎝)・礫(φ1㎝)少量、橙色土ブロック(φ3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 ．10YR4/3　にぶい黄褐色砂　しまり中　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。軽石ではない。
盛3 ．10YR4/4　褐色砂　しまり中　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。軽石ではない。

13T
盛1 ．10YR6/6　明黄褐色砂質土　しまり硬い　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。黄褐色砂質土粒・褐色土粒ブロック状・軽石・礫(φ1㎝)少量、黄褐色砂質土ブロック(φ1㎝)・灰黄色粘土ブロック(拳大・φ5㎝・φ3㎝)・橙色土粒・炭化物(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。

15T
盛1 ．10YR5/6　黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(拳大・φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 ．10YR5/6　黄褐色砂質土　しまり強　粘性なし　ゴルフ場造成時の盛土。軽石・橙色土ブロック(φ1㎝)・礫(φ1㎝～3㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛3 ．10YR3/3　暗褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
1 ．10YR5/4　にぶい黄褐色軽石　しまり強　粘性なし　As-B軽石純層。
2 ．10YR5/6　黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　As-B軽石微量含む。

16T
盛1 ．10YR5/6　黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ3㎝～5㎝)少量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛2 ．10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛3 ．10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)多量、橙色土ブロック(φ1㎝)・礫(φ3㎝～5㎝)微量含む。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛4 ．10YR5/4　にぶい黄褐色砂質土　しまり強　粘性弱　ゴルフ場造成時の盛土。礫(φ1㎝)少量、礫(φ5㎝)微量含む。明黄褐色砂ブロック(拳大)あり。基本土層Ⅱ2に対応する。
盛5 ．10YR6/6　明黄褐色砂質土　しまり強　粘性中　ゴルフ場造成時の盛土。基本土層Ⅱ2に対応する。

第8図　南西部埋没谷断面図②

6号土坑　（第４・５図、ＰＬ．２）
位置　調査区北東部（Ｉ区）。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　上部が削平されており、非常に浅い。
覆土　にぶい黄褐色砂である。　**平面形と規模**　平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸 1.51 m、短軸 1.00 m、確認面からの深さは４㎝を測る。　**長軸方向**　Ｎ―65°―Ｅ。　**壁面**　非常に緩やかに立ち上がる。　**底面**　概ね平坦である。　**遺物**　なし。　**備考**　本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。出土遺物がないことから、帰属時期は不明である。

7号土坑　（第４・５図、ＰＬ．２）
位置　調査区北東部（Ｉ区）。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　上部が多少削平されたと思われる。
覆土　上層は褐色砂質土、下層はにぶい黄褐色土である。　**平面形と規模**　平面形は不整隅丸長方形を呈する。規模は長軸 1.85 m、短軸 1.20 m、確認面からの深さは 14㎝を測る。　**長軸方向**　Ｎ―５°―Ｗ。　**壁面**　北壁・南壁は大きく外傾して立ち上がり、東壁・西壁は外傾して立ち上がる。　**底面**　概ね平坦であるが、北西方向に傾斜している。　**遺物**　なし。　**備考**　本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。出土遺物がないことから、帰属時期は不明である。

8号土坑　（第４・５図、ＰＬ．２・３）
位置　調査区北東部（Ｉ区）。　**重複関係**　なし。　**遺存状態**　上部が多少削平されたと思われる。
覆土　上層は暗褐色砂質土、下層はにぶい黄褐色砂である。　**平面形と規模**　平面形は不整楕円形を呈する。規模は長軸 2.87 m、短軸 1.52 m、確認面からの深さは９㎝を測る。　**長軸方向**　Ｎ―47°―Ｅ。
壁面　南壁・東壁は外傾して立ち上がり、北壁・西壁は非常に緩やかに立ち上がる。　**底面**　概ね平坦であるが、北西方向に傾斜する。北東・南西両端部に小穴が見られる。北東側は長軸 0.48 m、短軸 0.34 m、底面からの深さは５㎝を測る。南西側は長軸 0.55 m、短軸 0.36 m、底面からの深さは９㎝を測る。
遺物　なし。　**備考**　本遺構は、形態に特徴がないことから性格は不明である。出土遺物がないことから、帰属時期は不明である。

第１表　ピット観察表

遺構名	平面形	規模（㎝）			覆土	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ			
Ｐｉｔ１	不整円形	26	21	14	A	―	
Ｐｉｔ２	不整円形	49	42	32	B	―	
Ｐｉｔ３	不整円形	56	47	13	C	―	
Ｐｉｔ４	楕円形	48	40	25	D	―	
Ｐｉｔ５	不整円形	46	30	5	D	―	
Ｐｉｔ６	不整円形	36	31	14	E	―	

遺構名	平面形	規模（㎝）			覆土	出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ			
Ｐｉｔ７	不整円形	57	53	17	D	―	
Ｐｉｔ８	楕円形	81	42	36	E	―	現代遺構
Ｐｉｔ９	不整円形	24	20	4	E	―	
Ｐｉｔ１０	隅丸方形	22	21	11	E	―	
Ｐｉｔ１１	不整円形	63	54	13	C	―	

A：暗褐色土　B：暗褐色砂質土　C：褐色砂　D：褐色砂質土　E：にぶい黄褐色砂質土

第４節　埋没谷

Ｉ区調査区とⅢ区調査区の２か所の南東斜面で埋没谷が確認された。Ｉ区調査区において、調査区東壁際で確認された遺構と判断したものを半截した際に壁面が現れずどんどん広がっていく状況となった。そのため、半截方向及び調査区壁際にトレンチを設定し掘削を行った結果、表土掘削の際に地山と判断していたものの一部が盛土で、その下に埋没谷があることが確認された。それを受けてⅢ区調査区の南東斜面も見直したところ、こちらも地山と判断していたものが盛土で、その下に埋没谷があることが判明した。

北東部埋没谷　（第６図、ＰＬ．３）
位置　調査区北東部（Ｉ区）。　**覆土**　上からゴルフ場造成時の盛土、旧表土、Ａs-Ａと思われる軽石を含む土層・Ａs-Ｂ軽石純層、谷の自然堆積土の順に堆積し、一部で旧表土が見られない場所がある。
規模　幅 22.6 m、長さ 18.2 m以上、確認した面からの深さはＡs-Ｂ軽石直下で最深 36㎝、底面までは 111㎝以上を測る。　**長軸方向**　Ｎ―65°―Ｗ。　**遺物**　土師質土器の内耳鍋片２点とかわらけ１点が出土しており、３点図示した。　**備考**　埋没谷の範囲を確認するため、東壁トレンチの他に１～９トレンチまで設定し掘削を行った。８・９トレンチは設定位置を誤り谷の立ち上がりを確認できなかった。調査区東壁は谷の底面に近い位置にあたる。東壁トレンチの土層堆積状況を見ると、盛土は谷上場の近くでは５㎝ほどで、中央に行くにしたがって厚くなり 50㎝ほどとなる。盛土の下には旧表土と考

えられる黒褐色土やにぶい黄褐色砂･砂質土、褐色砂質土、Ａs-Ａと思われる軽石を含むにぶい黄褐色砂･黒褐色砂が堆積している。その下にＡs-Ｂ軽石の純層が堆積しており、最厚15㎝の厚みでレンズ状堆積の様相が見られる。このような堆積状況から、東壁トレンチ周辺ではＡs-Ｂ軽石降下前及び降下後に遺構が造られることはなかったと言える。Ａs-Ｂ軽石純層の下は、にぶい黄褐色砂質土・暗褐色砂質シルトと黒褐色砂・砂質シルト・黒色シルトが互層をなして堆積している状況が確認され、谷の自然堆積土と考えられる。東壁トレンチ西端部では盛土下面から110㎝ほど掘り下げを行った。谷の底面は確認できなかったが、これ以上の掘り下げは危険と判断したため掘削は行わなかった。また、東壁トレンチではＡs-Ｂ軽石純層下の土層から土師質土器の内耳鍋片２点とかわらけ片１点が出土した。北東部埋没谷から出土した遺物はこの３点のみであることから、埋没谷内部には遺構が存在しない可能性が高いと考えられる。遺物は流れ込んだもので、周辺とくに尾根上部に同時期の何らかの遺構があったものと思われるが、尾根上部は削平されているため不明である。ゴルフコースに面している斜面であることから、尾根の入り組みを軽減するために盛土整形されたものと考えられる。

南西部埋没谷　（第７・８図、ＰＬ．３）

位置　調査区南西部（Ⅲ区）。　**覆土**　上からゴルフ場造成時の盛土、旧表土、Ａs-Ａと思われる軽石を含む土層・Ａs-Ｂ軽石純層、谷の自然堆積土の順に堆積し、旧表土の残っている場所は少ない。

規模　幅33.4ｍ、長さ18.7ｍ以上、確認した面からの深さは３ｍ以上を測る。北端部が北側に張り出しており、張り出し部は幅12.4ｍ、長さ約15ｍである。　**長軸方向**　Ｎ―59°―Ｗ。　**遺物**　なし。

備考　埋没谷の範囲を確認するため、１～17トレンチまで設定し掘削を行った。２～４・７・９トレンチは設定位置を誤り谷の立ち上がりを確認できなかった。17トレンチは深さを確認するため当初人力で調査を行ったが、かなり深くなることが確認できたため重機での掘削を行った。調査区東壁は、谷の上方約１/３付近にあたる。17トレンチを重機で掘削した際、盛土の転圧がしっかりしたものではなかったため１ｍ強掘り下げた段階で斜面上方の壁面の崩落が発生した。当初は土層断面の写真撮影・断面図作成を行なう予定であったが、トレンチ内に入るのは危険と判断し盛土が除去された段階で箱尺を入れて状況写真を撮影し、すぐに埋め戻しを行った。盛土の厚さは約3.4ｍあり、すぐ下からＡs-Ｂ軽石が確認された。Ａs-Ｂ軽石純層及びＡs-Ａと思われる軽石を含む土層は谷の北側で多く見られるが、南側では確認されておらず、旧表土と思われる土層も確認されていない。尾根の根本側である南側の標高が低くなっている状況とも合わせると、南側がかなりの深さまで削平されたものと考えられる。ゴルフコースに面している斜面であることから、尾根の入り組みを軽減するために盛土整形されたものと考えられる。

第５節　出土遺物

本遺跡は、ゴルフ場造成に伴い削平・盛土が行われていたため見つかった遺物の多くが近現代のものであった。その中でわずかに出土した縄文時代～近世の遺物のうち20点を図示した。

縄文時代

１は縄文土器片である。外面に絡条体圧痕文・ＲＬ単節縄文を施す。２は形状から磨石、３は形状から石皿と判断した。ともに擦痕などの使用痕は不明瞭である。

古代

４は須恵器甕である。還元焔焼成で、外面は平行タタキメ、内面は同心円状当て具痕（青海波文）である。

中世

５は白磁碗である。６は瀬戸美濃焼天目茶碗である。７は瀬戸美濃焼端反皿と思われる。内面見込みに鉄釉で文字のような紋様が描かれている。８・９は土師質土器内耳鍋である。８は口縁部、９は体部で、同一個体の可能性がある。10は瓦質土器火鉢と思われる。外面体部に縦位ハケメが残る。11～13は土師質土器かわらけである。11と12は同一個体の可能性がある。14は形態・色から碁石と判断した。

近世

15～19は染付で、そのうち17・18は陶胎染付と思われる。15・16は皿である。15は外面体中部・体下部及び底面に１条ずつ、高台部に２条の圏線が巡り、体上部に草木文と思われる絵が描かれる。内面口縁部に太めの界線が１条、見込み外縁に圏線２条が巡り、圏線の間に草木文と思われる文様が描か

れている。16 は内面見込みに虎が描かれている。17 は碗で、外面体下部に不明文様が描かれ、高台部に 2 条の圏線が巡る。19 は碗で、外面に草木文が描かれている。

時期不明

20 は形態から丸瓦と考えられる。21・22 は鉄滓である。21 はほぼすべてがガラス質になっている。22 は鉄分が多いように思われる。これらの遺物が出土したことから、付近で小鍛冶が行われていたものと考えられる。

第 9 図　出土遺物実測図

第６節　まとめ

今回の発掘調査では、ゴルフ場造成のため尾根は大規模に削平されたあと一部で盛土整地され、南東斜面は入り組んだ地形をならすために谷を埋められていたことが確認された。調査区北東部（Ⅰ区）の尾根頂部は、平坦部は最大幅５ｍほどと非常に狭く、馬の背状を呈する。盛土の下には旧表土が存在しておらず、地盤の砂礫層付近まで削平されていた状況である。確認された遺構は、現代の土坑とピットが１基ずつ、時期不明の土坑７基とピット 10 基である。調査区中央部（Ⅱ区）の尾根頂部は、盛土の下には旧表土が存在せず、地盤の砂礫層まで削平され、確認面ではブルドーザーの無限軌道（キャタピラー）痕が確認された。調査区南西部（Ⅲ区）の尾根頂部も、盛土の下からは旧表土が確認されなかった。尾根の付け根側であるにもかかわらず、先端に近いⅡ区よりも標高の低い現状から、大規模に削平されたと思われる。Ⅱ区・Ⅲ区ともに遺構は確認されなかった。

今回の発掘調査範囲は、蔵人城跡の本丸とその南側の第二郭、本丸北側の腰郭、および北東に延びる下郭が該当すると考えられる。尾根上部が大規模に削平されている状況から、蔵人城跡の遺構（郭）は破壊され消滅してしまったものと考えられる。『安中市史　第四巻　原始古代中世資料編』によると、「昭和五六年発掘調査（県教委）。一部を残し消滅。」とある。その発掘調査の内容は公開されておらず詳細は不明であるが、今回の発掘調査成果と合致するものと思われる。Ⅰ区から確認された時期不明の遺構が中世蔵人城の遺構の痕跡であるのか、現代の遺構であるのかは判然としない。

わずかではあるが出土した遺物には、蔵人城の存続時期を含む 16 世紀代の天目茶碗・白磁碗や、中世遺物と考えられる碁石があることから、遺構は確認されなかったが該期の人間が活動していたことを示すものと思われる。また、縄文土器片、土師器片、須恵器片、かわらけ片、内耳鍋片、近世磁器（染付）片が出土していることから、古くは縄文時代から蔵人城廃城後の江戸時代に至るまで人々の活動範囲であったと推測できる。その他に製錬鍛冶滓が出土していることから、時期は不明であるが小鍛冶が行われていたと思われる。

蔵人城跡の場所については、今回発掘調査を実施した尾根ではなく、東隣のゴルフ場敷地外の尾根であるとの指摘も見られる。今回発掘調査を行った尾根はゴルフ場造成時に削平されたため元の地形が残存しておらず蔵人城跡の遺構が消滅したと考えられる状況が明らかになったことから、東隣の尾根を踏査して確認してみる価値はあるものと考える。

引用・参考文献

山崎　一　1972 『群馬県古城塁址の研究　下巻』
山崎　一　1979 『日本城郭大系４　茨城・栃木・群馬』
安中市市史刊行委員会　2000 『安中市史　第一巻　自然編』
安中市市史刊行委員会　2001 『安中市史　第四巻　原始古代中世資料編』
安中市市史刊行委員会　2003 『安中市史　第二巻　通史編』
安中市教育委員会　2003 『東上秋間遺跡群発掘調査報告書　ＪＲ東日本旅客鉄道株式会社安中榛名駅周辺住宅開発事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

第２表　遺物観察表

出土土器

（　）：推定　［　］：遺存

挿図	番号	出土位置	種別・器種	法量(cm) 口径	底径	器高	胎土	焼成	色調	器形、成・整形、文様等の特徴	遺存状況
9図	1	Ⅰ区 カクラン	縄文土器 深鉢	—	—	[4.4]	密	良好	明赤褐色	外面：絡条体圧痕文、ＲＬ単節縄文。　内面：ナデ。	体部破片
9図	4	Ⅰ区 カクラン	須恵器　甕	—	—	[5.2]	密	還元焔焼成	褐灰色	外面：平行タタキメ。　内面：同心円状当て具痕（青海波文）。	体部破片
9図	5	Ⅰ区 カクラン	白磁　碗	—	(2.6)	[3.1]	密	良好	—	外面：ロクロ整形後青みがかった透明釉施釉。高台端部露胎。内面：ロクロ整形後透明釉施釉。高台端部に砂粒付着。外面に黒色点が見られ、二次被熱の可能性がある。	体中部 1/4 体下部～高台部 1/2
9図	6	Ⅰ区 カクラン	瀬戸美濃焼 天目茶碗	—	—	[2.2]	密	良好	黒褐色	外内面：ロクロ整形後鉄釉施釉。	破体部片
9図	7	Ⅰ区 カクラン	瀬戸美濃焼か 端反皿	—	(7.0)	[2.7]	密	良好	にぶい黄橙色	外面：体上部ロクロナデ。体下部～底部回転ヘラケズリ後高台貼付。高台部ロクロナデ。　内面：ロクロナデ、自然釉付着。見込みに鉄釉による施文、文字か。	体上部 1/10 体下部～高台部 1/4
9図	8	Ⅰ区 埋没谷東壁Ｔ	土師質土器 内耳土器	—	—	[4.1]	密	良好	灰黄色	内耳鍋。外面：ロクロナデ。口縁端部面取り。　内面：ロクロナデ。９と同一個体の可能性がある。	口縁部破片
9図	9	Ⅰ区 埋没谷東壁Ｔ	土師質土器 内耳土器	—	—	[5.6]	密	良好	暗灰黄色	内耳鍋。外面：体上部調整不明瞭、ナデか。体下部横位ヘラケズリ。煤付着。　内面：横位ヘラナデ。８と同一個体の可能性がある。	体部破片
9図	10	Ⅱ区　表土	瓦質土器 火鉢か	(25.8)	—	[8.2]	密	良	褐灰色	外面：口縁部ヨコナデ。頸部調整不明瞭、ヘラナデか。体上部横位ヘラナデ・縦位平行タタキメ。　内面：口縁部ヨコナデ。頸部～体上部ロクロナデ。	口縁部～体上部 1/8
9図	11	Ⅱ区 カクラン	土師質土器 かわらけ	—	—	1.9]	密	良	橙色	外内面：ロクロナデ。12と同一個体の可能性がある。	口縁部破片
9図	12	Ⅱ区 カクラン	土師質土器 かわらけ	—	—	[1.2]	密	良	橙色	外面：体部ロクロナデ。底部回転糸切り。　内面：ロクロナデ。11と同一個体の可能性がある。	底部破片
9図	13	Ⅰ区 埋没谷東壁Ｔ	土師質土器 かわらけ	—	(6.6)	[1.9]	密	良好	橙色	外面：体部ロクロナデ。底部回転糸切り。　内面：ロクロナデ。	体下部～底部 1/4
9図	15	Ⅱ区　表土	染付 高台付皿	(13.0)	(7.6)	3.1	密	良好	—	外面：体上部草木文の下に圏線１条。体下部・底部圏線１条。高台部圏線２条。　内面：口縁部太い県線１条。体部草木文。見込み外縁圏線２条。見込み無文。	1/8
9図	16	Ⅰ区 カクラン	染付　皿	—	—	[0.8]	密	良好	—	外面：無文。　内面：獅子文。　高台が付く可能性がある。	底部破片
9図	17	Ⅲ区　平坦部	染付　碗	—	(4.0)	[2.4]	密	良好	—	胎陶染付か。外面：体下部草木文か。高台部圏線２条。高台端部無釉。内面：無文。	体下部～高台部 1/3
9図	18	Ⅱ区　表土	染付　碗	—	—	[4.0]	密	良好	—	胎陶染付か。外面：口縁部線描。　内面：無文。	口縁部破片
9図	19	Ⅱ区　表土	染付　碗	—	—	[2.7]	密	良好	—	外面：草木文か。　内面：無文。	口縁部破片
9図	20	Ⅰ区 カクラン	丸瓦か	長 [7.5]	幅 [11.5]	厚 1.6	密	良好	黒褐色	外内面：ナデ、ヘラナデ。	破片

出土鍛冶関連遺物

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (cm)：推定　[ ]：遺存 長さ	幅	厚さ	重さ (g)	器形、成・整形等の特徴	遺存状況
9図	21	Ⅱ区　表土	鉄滓	[3.9]	[3.1]	[2.5]	[21.9]	一部鉄分があるほかは全てガラス質。	破片
9図	22	Ⅲ区 南東斜面	鉄滓	[5.2]	[4.2]	[3.3]	[46.1]	わずかに磁着あり。	破片

出土石製品

挿図	番号	出土位置	種別	法量 (cm)：推定　[ ]：遺存 長さ	幅	厚さ	重さ (g)	石質	器形、成・整形等の特徴	遺存状況
9図	2	Ⅰ区 カクラン	磨石か	9.2	8.4	6.3	688.7	安山岩か	上下両端に敲打痕と思しき窪みが見られる。	完形
9図	3	Ⅰ区 カクラン	石皿か	18.0	13.8	5.3	1352.3	泥岩か	磨り面と思われる円形の窪みがあり、その面には砂粒が付着している。	完形
9図	14	Ⅰ区 カクラン	碁石	1.7	1.6	0.4	1.7	チャートか		完形

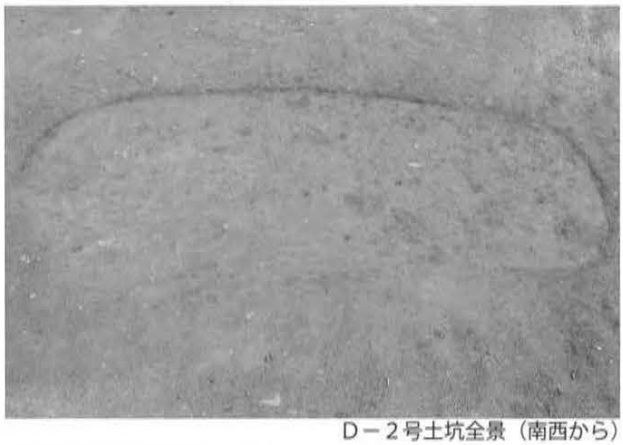
蔵人城跡遠景（南東上空から）

調査区全景（真上から　上が西）

PL. 2

調査前遠景（南から）

D－1号土坑全景（南西から）



D－2号土坑全景（南西から）

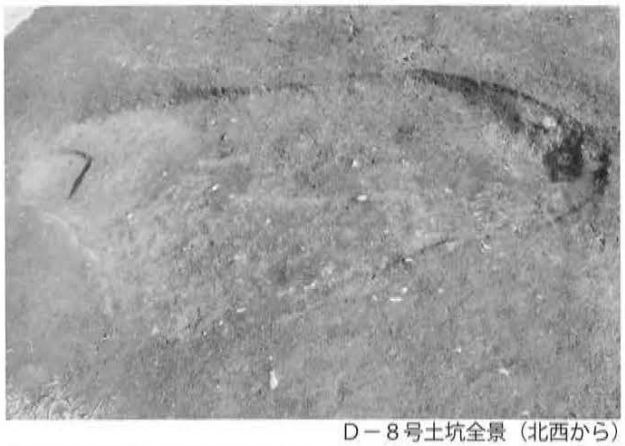
D－3号土坑全景（北から）

D－4号土坑全景（南西から）

D－5号土坑全景（南東から）

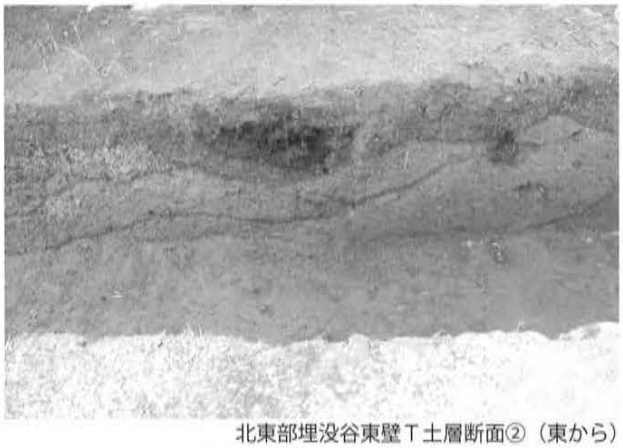
D－6号土坑全景（南東から）

D－7号土坑全景（南から）



D－8号土坑全景（北西から）

北東部埋没谷東壁Ｔ土層断面①（南東から）

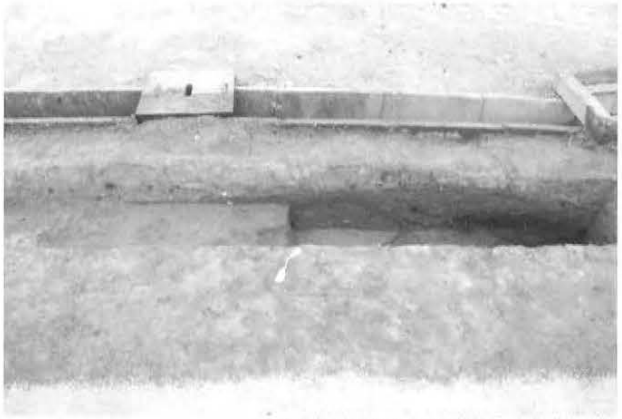


北東部埋没谷東壁Ｔ土層断面②（東から）

北東部埋没谷３Ｔ土層断面（北東から）

北東部埋没谷４Ｔ土層断面（南から）

南西部埋没谷３Ｔ土層断面（南東から）



南西部埋没谷５Ｔ土層断面（南西から）

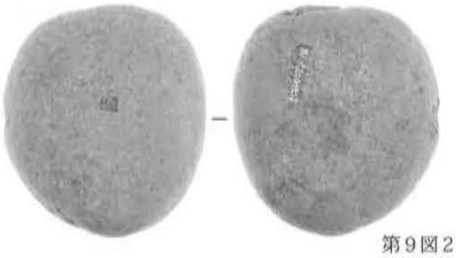
南西部埋没谷 16 Ｔ土層断面（南東から）

PL. 4

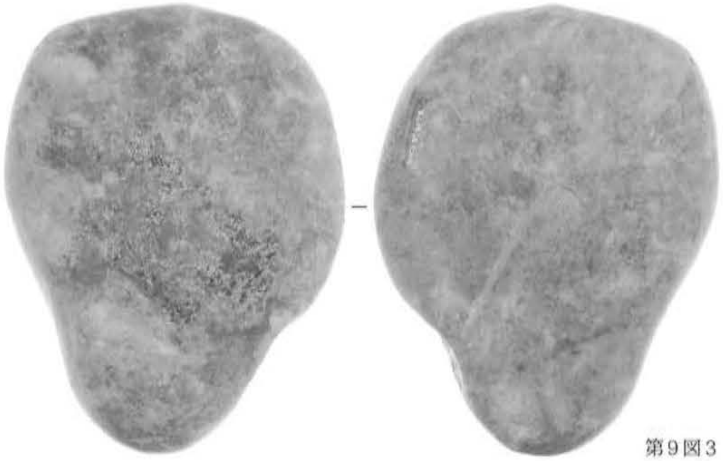
南西部埋没谷 17 T 掘削状況（北から）

作業風景

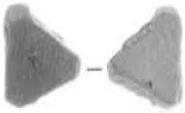
第9図1



第9図2



第9図3



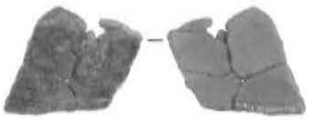
第9図4

第9図5

第9図6

第9図7

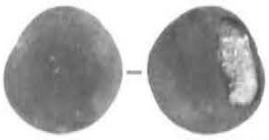
第9図8



第9図9

第9図10

第9図13



第9図14
1/1

第9図11

第9図12

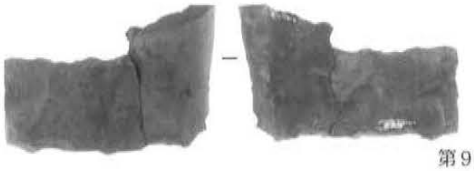
第9図15

第9図16

第9図17

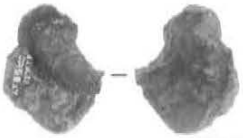
第9図18

第9図19



第9図20

第9図21



第9図22

遺物写真

発掘調査報告書抄録

ふ り が な	くらんどじょうあと
書　　名	蔵人城跡
副 書 名	大規模太陽光発電所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編 著 者 名	髙林　真人　　千田　茂雄
編 集 機 関	株式会社　測研
所　在　地	〒370－3517　群馬県高崎市引間町712-2
発行年月日	平成30年5月31日

ふりがな 所収遺跡名	所　在　地	コード		北　緯 (世界測地系)	東　経 (世界測地系)	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
くらんどじょうあと 蔵人城跡	群馬県安中市中秋間薬師谷津865番1他、鍛冶谷津乙1504番地他	102113	B-12	36°20′35″	138°52′35″	20170403 ～ 20180516	4500	大規模太陽光発電所建設

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
蔵人城跡	城館跡	中世 現代 時期不明	土坑　1基 ピット　1基 土坑　7基 ピット　10基	縄文土器 土師器 須恵器 土師質土器 陶磁器 鉄滓 石製品	ゴルフ場造成時に削平・盛土がなされており、中世山城の郭は破壊されていると考えられる。

要約	本遺跡は秋間丘陵の分岐丘陵である後閑丘陵東端部の、秋間川に面した小尾根上に立地する中世の並郭式山城である。ゴルフ場の敷地内に位置しており、ゴルフ場造成時に大規模に削平・盛土がなされていたことから、蔵人城跡の遺構（郭）は破壊され消滅してしまったものと考えられる。わずかであるが縄文土器片、土師器・須恵器片、土師質土器片、中近世陶磁器片、鉄滓、石製品が出土していることから、中世に限らず長い期間にわたって人々の活動範囲内であった場所と考えられる。

蔵　人　城　跡

―大規模太陽光発電所建設に伴う埋蔵文化財発掘調査―

2018年5月16日　印刷
2018年5月31日　発行

発　行　　群馬県安中市教育委員会
株式会社　クリーンエネルギー研究所
株式会社　測研

印　刷　　上毎印刷工業株式会社